

2018年度 授業要覧

教育人間科学部 履修ガイド



青山学院大学

教育方針・理念

青山学院教育方針

青山学院の教育は
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き
真理を謙虚に追求し
愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

青山学院大学の理念

青山学院大学は、「青山学院教育方針」に立脚した、
神と人にとり仕え社会に貢献する
「地の塩、世の光」としての教育研究共同体である。
本学は、地球規模の視野にもとづく正しい認識をもって
自ら問題を発見し解決する知恵と力を持つ人材を育成する。
それは、人類への奉仕をめざす自由で幅広い学問研究を通してなされる。
本学のすべての教員、職員、学生は、
相互の人格を尊重し、建学以来の伝統を重んじつつ、
おのおのの立場において、時代の要請に応えうる大学の創出に努める。

青山学院大学

「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」

本学は、教養教育である「青山スタンダード」を基礎とし、各学部学科の専門教育によって教育課程を編成する。

共通教育の性質上、扱う分野は多岐にわたる。カリキュラム体系として、分野を9領域に分け、加えて初年次教育のカテゴリーを用意する。また、さまざまな学問分野に触れる機会を多くするため、基礎的スキルおよび本学の建学の精神にかかわる一部の科目を除き、多くを選択必修科目として配置する。各領域および初年次教育の内容は以下のとおり編成する。

・キリスト教理解関連領域（領域A）

キリスト教の使信、起源、および発展を理解することにより、世界史におけるキリスト教の宗教的、社会的、道徳的、学術的、経済的、政治的、また狭義の文化的影響と意義をキリスト教の立場から考察する。

・人間理解関連領域（領域B）

哲学、倫理学、心理学、教育学、文化論、芸術論、文学、言語学、人類学など人文諸科学を通じて、人間とは何かを学ぶ。

・社会理解関連領域（領域C）

社会がどのようなしくみとシステムによって成り立っているのか、また、どのような社会的課題があるのかを理解する。

・自然理解関連領域（領域D）

自然現象を探求する行為、及びそれによってもたらされる科学的・合理的思考と応用とを理解し、科学的発見と技術開発が人間生活や社会に与える影響や変化を多面的に考える。

・歴史理解関連領域（領域E）

歴史の中で政治や経済、法、学問、文化、言語などがどのように構成されてきたのかを理解し、人類史、文化史、自然史といったマクロな歴史的洞察を深める。

・言葉の技能（領域F）

日本語はもとより英語をはじめとする諸外国語についてのスキルアップをめざす。

・身体の技能（領域G）

自分の身体についての基礎知識や身体技法に関する知識を獲得し、生涯にわたってスポーツに親しむことの出来る能力や健康な生活をマネジメントする能力の修得をめざす。

・情報の技能（領域H）

情報化社会を生き抜く上で必要なIT（Information Technology）に関する技法やメディアリテラシーの修得をめざす。

・キャリアの技能（領域I）

将来、社会人として活躍するために、様々な職業の実態を具体的な事例を通して学び、また職業人に必要なスキルを身につける。

・初年次教育

大学で学問を学ぶ意義や個々の学問の目的、手法について学習し、さらに職業観、勤労観などを育成する。

「ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」

本学を卒業する人材は、教養教育である「青山スタンダード」および学部・学科ごとの専門教育を学修し、正課外活動を通じて、以下の能力等を有している。

- ・十分な知識・技能
- ・それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力等の能力
- ・これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ意欲・関心・態度

「青山スタンダード」による学修は、およそ青山学院大学の卒業生であれば、どの学部・学科を卒業したかに関わりなく、以下の一定の水準の技能・能力と一定の範囲の知識・教養をそなえているという社会的評価を受けることを到達目標とする。

①知識・技能

- ・学問的なものの考え方、基本的な調査・分析・表現方法、現代社会で活躍するための基本的な情報スキルを身につけている。

②思考力・判断力・表現力

- ・さまざまな学問分野の視点・手法・成果を理解し、物事について多面的、多角的に考えることができる。

③意欲・関心・態度

- ・異なる文化・社会や異なる歴史観への関心、および他者への豊かな共感を持ち、積極的に社会に貢献する意欲がある。

教育人間科学部

教育学科

「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」

教育学科は、学科の人材育成目的の達成のため、（１）語学教育として外国語科目（英語科目）、（２）教養教育として青山スタンダード科目（第二外国語科目を含む）、（３）専門教育として以下の教育学科学科科目によって教育課程を編成する。

教育学科学科科目

第0群：教育学の基盤に関わる科目群

第I群：人間形成探究に関わる科目群

第II群：臨床教育・生涯発達に関わる科目群

第III群：教育情報・メディアに関わる科目群

第IV群：幼児教育学に関わる科目群

第V群：児童教育学に関わる科目群

第VI群：中等教育に関わる科目群

第VII群：キリスト教教育に関わる科目群

段階（学年）ごとの科目構成・配置については、次の方針を取る。すなわち、基礎教養の基盤を人間の総合的研究と位置づけ、1・2年次においては、外国語科目（英語科目）と青山スタンダード科目（第二外国語科目を含む）を履修の中心に据え、かつ教育学の各学問領域に対応する基礎的な教育学科学科科目（上記第0～V群において必修科目・選択必修科目を指定）を通して学習を進める。3年次以降は、教育学のより専門的な学習を進めるため、教育学に関わる様々な課題について、5つの履修コース（科目群）、すなわち第I群科目を中心に学ぶ人間形成探究コース、第II群科目を中心に学ぶ臨床教育・生涯発達コース、第III群科目を中心に学ぶ教育情報・メディアコース、第IV群科目を中心に学ぶ幼児教育コース、第V群科目を中心に学ぶ児童教育コースとして教育学科学科科目を履修する。

また、科目・構成配置にあたっては、次の諸点に留意する。

- ・講義科目を中心に、文化と社会の中に生きる人間の身体的・心理的発達のメカニズムと教育との関係のあり方を理論的実践的に幅広く学び、知識・技能を培う。
- ・必修の演習科目である教育学科学科科目（一年次の「基礎演習」「教職総合演習」、2年次の「応用演習Ⅰ」「応用演習Ⅱ」、3年次の「専門演習」、4年次の「卒業研究」など）、および実習科目を中心に、思考力・判断力・表現力を培う。
- ・選択した履修コース（科目群）以外の科目群などからも科目を履修できることによって、幅広く学習分野が多様で、選択幅が広く、履修上の制約が小さいカリキュラムを設定し、個々の学生が、人間形成と社会のあり方を広い視野から学び、修得した優れた独創的な専門性を活かし、将来の方向性を的確に選択できるよう、意欲・関心・態度を培う。

「ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」

教育学科は、以下の要件を満たす学生に対し、「学士（教育学）」を授与する。

①知識・技能

- ・全学的な教養教育と教育学に関する専門教育によって、人間の一生における成長過程を幅広く捉えることのできる理論的な知と実践的な知を有している。

②思考力・判断力・表現力

- ・ますます多元化し複雑化する現代社会における諸問題を理解し、それを明らかにする科学的探究などに必要な対応能力（思考力・判断力・表現力を含む）を有している。

③意欲・関心・態度

- ・教育の本質と理想的な姿を追求するとともにその担い手である人間という存在への理解を深めようとする意欲（関心・態度を含む）を有している。

心理学科

「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」

心理学科は、学科の人材育成目的の達成のため、以下のような専門教育科目（心理学科学科科目）と、外国語科目及び青山スタンダード科目（含む 第二外国語科目）で構成される教育課程を編成する。

心理学科学科科目

第Ⅰ群：基礎科目・哲学科目

第Ⅱ群：心理学領域講義科目（発達心理学・認知心理学・社会心理学領域 ほか）*

第Ⅲ群：心理学領域講義科目（発達心理学・認知心理学・社会心理学領域 ほか）

第Ⅳ群：臨床心理学領域講義科目*

第Ⅴ群：臨床心理学領域講義科目

第Ⅵ群：臨床心理学領域実習・演習科目

第Ⅶ群：演習科目

第Ⅷ群：特別研究及び卒業論文

* 第Ⅱ群・第Ⅳ群は、心理学領域講義科目・臨床心理学領域講義科目のうち、国家資格「公認心理師」受験に必要な科目である。

基礎科目（Ⅰ群）は学生の学習状況に合わせた段階的な科目配置を行う。必修科目として、1年次には「心理学概論」と「心理学基礎演習」「心理統計基礎」を通して心理学の基本的な知識と批判的実証的態度を身につける。2年次には「心をめぐる諸問題」を通して心についての多様な視点を身につけ、思考力を養うとともに、「心理学実験」と「心理学研究法」で心理学の基本的な研究方法および倫理を、「心理学統計法Ⅰ」「心理学統計法Ⅱ」で基本的な統計処理技能を習得する。それと合わせて、2年次・3年次には、各自の興味のある研究領域に応じて、コンピュータプログラミングや高度な統計技法、専門的な研究手法を身につける科目や、心について哲学的な考察を深めるための科目も選択必修として用意する。

Ⅰ群に含まれる哲学の講義科目も含め、多彩な講義科目（Ⅱ群・Ⅲ群・Ⅳ・Ⅴ群）と演習科目（Ⅵ・Ⅶ群）は、基礎科目での学習の進行状況を配慮した学年配置を行う。特に認知心理学・発達心理学・社会心理学・臨床心理学の4領域については、1年次配置の各概論から始まり、2年次配置の専門的な内容の科目、3年次配置の特別講義へと、順を追って学習を進められる配置を行っている。学生は、これらの中から各自の興味を中心に据えた科目選択を行うことによって、専門の知識や技能を向上させるとともに、個別の問題解決への意欲・態度を養う。また、2・3年次には、演習科目（Ⅶ群）の中から必修科目として「心理学応用演習」を履修することによって、先行研究を読み解く能力とともに、思考力・判断力・表現力を培う。さらに外国語の文献や哲学の文献を読み解く力を養いたい学生に対しては、そのための演習も用意する。

なお、3年次以降は、各自の希望進路にあわせて、多彩な進路に向けて自由度の高い授業選択ができる「一般心理コース」と、将来、「公認心理師」や「臨床心理士」を目指す人のための「臨床心理コース」のいずれかを選択して履修を進めることになる。「臨床心理コース」に進んだ学生に対しては、「公認心理師」受験に必要な講義科目（Ⅱ群・Ⅳ群）と演習科目（Ⅵ群の「心理演習」）の大半を必修科目とするとともに、心理学的支援を行う上での技能・態度・意欲を養うための実習科目（Ⅵ群の「心理実習」）を選択必修として用意する。

Ⅷ群の「特別研究演習Ⅰ・Ⅱ」（3年次必修科目）では、心理学の実証研究（実験・調査・観察、面接など）を企画・実行し、研究論文を作成する。4年次の「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」（選択必修）ではさらに進んだ研究を行い、卒業論文の作成と発表を行う。また、「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」では、所定の哲学の講義・演習を履修した者に限り、

卒業論文を哲学領域で執筆することも可能とする。これら各自の研究の遂行と研究論文および卒業論文の執筆等を通して、意欲・態度とともに思考力や判断力、表現力、実行力、発信力を高める。

「ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」

心理学科は、以下の要件を満たす学生に対し、「学士（心理学）」を授与する。

①知識・技能

- ・人間を多様な視点から見るための広い教養を持っている。
- ・心の多様性と普遍性を理解し、心理学の学問内容と研究方法を身につけている。
- ・心理学の基礎・応用に関連する研究あるいは実践活動を遂行するために必要な、実験・調査・面接・テストを実施する技術を習得している。

②思考力・判断力・表現力

- ・心理学の研究や調査を計画・立案し、報告書にまとめる能力を身につけている。
- ・研究成果や自分の考えを的確に発信することができる。

③意欲・関心・態度

- ・国内外の資料を自ら探し、批判的実証的態度をもってそこから学ぶことができる。
- ・心理学の知識と方法論を応用して、社会、企業、組織、地域、家庭におけるさまざまな問題を発見し、解決に取り組む意欲を有している。

総目次

I. キリスト教教育について.....	2
II. 大学での学習活動について.....	3
1 大学での学習とは（カリキュラム／履修）	
2 単位（単位制／単位とは／単位数／既修得単位の認定／協定校・認定校留学による単位認定）	
3 授業科目の種類と配置（授業科目の種類／履修年次／履修順序）	
III. 履修について.....	6
1 履修計画（履修計画の立案／履修計画上の注意）	
2 履修登録（履修登録について／履修登録の方法／履修登録の確認と修正／履修取消制度について／履修取消申請方法／青山学院女子短期大学との単位互換制度について）	
IV. 学部履修要項.....	11
V. 授業について.....	60
1 授業（授業時間／授業教室／休講／補講／授業の欠席について）	
2 大学からの伝達	
3 緊急時の「授業の取り扱い」および「伝達手段」について	
VI. 試験・レポートについて.....	62
1 試験の種別（定期試験／平常試験／レポート／追試験）	
2 定期試験の受験（定期試験時間／受験上の注意）	
3 追試験の受験（申請資格／申請方法／追試験時間・採点）	
4 不正行為	
VII. 成績評価について（成績評価／G. P. A.／成績通知／成績調査）.....	66
VIII. 進級および卒業について（進級／卒業／9月卒業／卒業延期制度）.....	68
IX. 証明書について.....	69
X. 学籍について.....	70
（修業年限／在学年限／休学／復学／退学／再入学／二重学籍／除籍／転学部・転学科）	
XI. 教職課程（教員免許状・各種資格）について.....	72
XII. 大学院について.....	79
巻末 教務窓口について	

I. キリスト教教育について

本学のキリスト教教育

キリスト教の精神のもとに建てられている青山学院は、その「教育方針」にも明記されているように「キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、神の前に真実に生き 真理を謙虚に追求し 愛と奉仕の精神をもって すべての人と社会とに対する責任を 進んで果たす人間の形成を目的とする」特別な学校です。したがって、その中に設置された青山学院大学においても、キリスト教教育を非常に重視しています。

本学における教育の特徴が他の国公立や私立の大学と異なる最もユニークな点は、このキリスト教による教育方針にあるといえます。

この教育方針をまっとうするために、本学には次の3つの基本的プログラムがあります。

- (1) 大学礼拝 (2) キリスト教概論 (3) 宗教センター活動

(1) 大学礼拝

大学では、キリスト教教育の中心に礼拝を位置づけており、時間を定めて礼拝を行っています（礼拝時間：青山・月～金 10時30分～11時 および 火 18時～18時30分、相模原・月～金 10時30分～11時）。大学礼拝は、キリスト教の信仰を土台とする学院の精神を最も具体的に示す場であるとともに、みなさんにキリスト教による人格教育を行う教育の場でもあります。礼拝出席は自由ですが、青山学院大学の独特な“スピリット”は礼拝においてよく表わされているので、大学礼拝を体験することなしに本学の教育を受けたとは言えないのです。

(2) キリスト教概論

大学の必修科目の一つとして、「キリスト教概論」があります。この講義は、本学建学の精神であるキリスト教の信仰の内容を学問的に研究し、聖書を通してキリスト教の教義、歴史、神学、実践などの問題を理解するとともに、キリスト教の現代的意義を学ぶことを目的としています。大学礼拝とキリスト教概論とは密接な関係があり、そのため礼拝レポートがキリスト教概論の中に取り入れられています。その他数多くのキリスト教関連科目が青山スタンダード（テーマ別科目）、スーパー・プログラム科目、各学科科目のなかに配置され、みなさんの知的好奇心にチャレンジしています。

(3) 宗教センター活動

青山学院は、プロテスタント・キリスト教信仰の上に創立された学園であり、宗教センターは、特に、メソジスト教会の創始者、ジョンおよびチャールズ・ウェスレー兄弟の信仰的伝統を重んじ、キリスト教活動を行っています。青山キャンパスは間島記念館1階に、相模原キャンパスはC棟（チャペル）1階にそれぞれ宗教センターがあり、学生キリスト教活動の中心になっています。

各宗教センターでは、みなさんのために「聖書に親しむ会」、「キリスト教文化に親しむ会」、青山キリスト教学生会（ACF）、聖歌隊、ハンドベル・クワイア、ゴスペル・クワイアまた、キリスト教図書の閲覧、講演会・コンサートの開催、研修旅行の実施などの活動が行われており、学生生活に色彩とバランスをあたえるために重要な役割を果たしています。さらに、各宗教センターには大学の専任教員でもある宗教主任（牧師）がおり、事務職員と協力して毎日みなさんのために宗教上の指導、アドバイス、教会紹介、カウンセリングなどの責任を負っています。この宗教センター活動は他大学とは異なる本学独特のシステムであり、みなさんの利用を待っています。活動の詳細は「キリスト教活動のしおり」ならびに宗教センターWebサイトを参照してください。

Ⅱ. 大学での学習活動について

1. 大学での学習とは

カリキュラム

大学の授業科目、単位数、履修年次（どの学年で履修するか）を体系的に編成したものを「カリキュラム（教育課程）」といいます。所属する学部・学科のカリキュラムにそって学習を進め、最終的に、定められたカリキュラムの授業内容を修得することが、大学での学習の目的です。

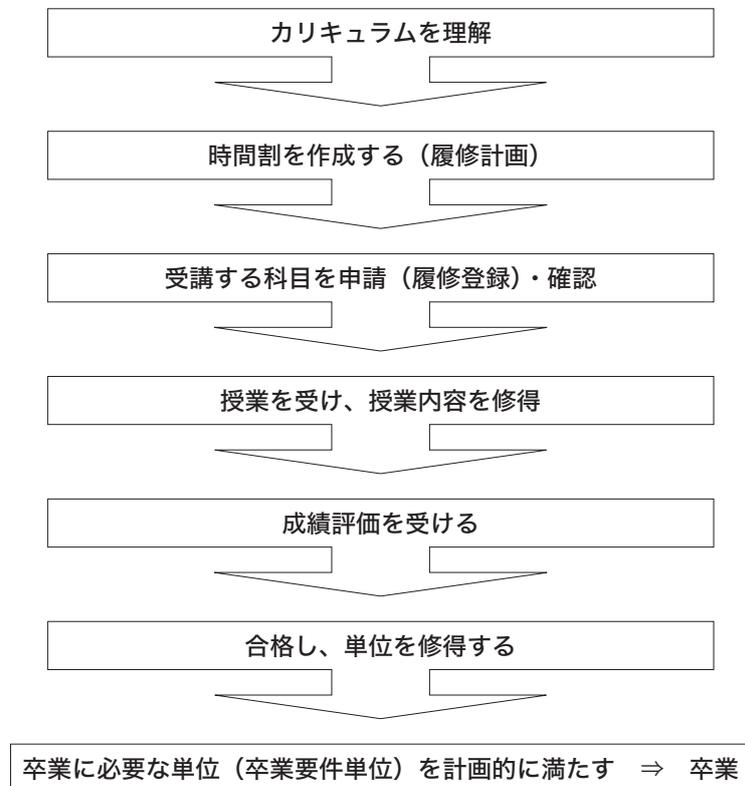
カリキュラムは入学年度別に定められており、卒業まで変更はありません。

各学部・学科のカリキュラムについては、「Ⅳ. 学部履修要項」を参照してください。

履 修

各学部・学科のカリキュラムにそって配置された授業科目の受講を大学に申請することを「履修登録」、授業を受け、試験に合格して単位を得ることを「単位を修得する」といいます。この「履修登録」から「成績評価を受ける」までの一連の流れを「履修」といいます。

図式化すると以下のようになります。



大学では、カリキュラムで定められた範囲で履修する科目を選択することができますが、卒業に至るまでの過程は自己責任であるということを常に念頭に置いてください。

2. 単 位

単位制

単位制とは、卒業するために、在学年限内に所定の単位を修得しなければならない制度です。これは極めて厳格なもので、たとえ1単位であっても不足すると卒業できません。卒業に必要な単位数は、学部・学科ごとに定められています。詳しくは、「Ⅳ. 学部履修要項」の「卒業要件」を参照してください。

単位とは

単位とは、学習の成果を量的に表したものです。授業科目を履修し、出席回数、平常試験・定期試験またはレポート、その他担当教員が必要と認める学習作業の結果などによって、その授業科目に合格したと担当教員が判断したとき、所定の単位が与えられます。

単位数

単位数は、それぞれの授業科目ごとに定められており、授業形態によって算定方法が異なります。

大学設置基準による規定	1単位の標準＝“45時間の学修が必要な内容”
-------------	------------------------

本学での単位算定方法

講義・演習の科目では…	1単位＝授業15～30時間分
実験・実習・実技（スポーツなど）の科目・集中科目では…	1単位＝授業30～45時間分

15時間の講義科目（1単位）を例にとると、“45時間の学修を必要とする内容”で1単位、と規定されており、授業時間外に30時間の自習が前提となっています。

なお、ここでいう“1時間”とは、授業時間45分を表します。本学での1時限の授業は90分で行われているので、単位計算上は、1時限＝“2時間分の授業”となります。

半期の講義科目では、

15週×2時間＝30時間分＝2単位

となります。

実際の単位数

半期科目 (前期のみ、または後期のみの科目)	15週で完結 ・講義科目なら2単位 ・演習科目なら2単位または1単位 ・実験・実習・実技科目なら1単位
通年科目 (一年を通して行われる科目)	30週で完結 ・講義科目なら4単位 ・演習科目なら4単位または2単位 ・実験・実習・実技科目なら2単位

既修得単位の認定

新たに入学した1年生で、本学入学以前に他大学・短期大学ですでに修得した単位があり、修得済み単位として認定を受けたい学生は、指定された期間（入学式翌日～前期授業開始日）に書類を所属キャンパスの教務窓口へ提出し申請してください。各学部・学科の基準に従って単位認定の可否が決定されます。既修得単位として認定された単位数と、入学後に交換留学等で認定される単位数は、合わせて60単位を越えないものとします。（大学学則第42条参照）この申請は、入学した年度に限って可能であり、次年度以降に申請することはできません。

編入・転学部・転学科した学生の場合は、それまで修得した単位のうち、各学部・学科が適当と認める科目の単位が認定されますので、指定された期間（入学手続時配付書類に記載）に書類を所属キャンパスの教務窓口へ提出し申請してください。

協定校・認定校留学による 単位認定

協定校留学・認定校留学の制度によって留学した場合は、帰国後所定の手続きをふむことで、留学先で修得した単位について、各学部・学科の基準に従って単位認定の可否が決定さ

れます。既修得単位として認定された単位数と、入学後に交換留学等で認定される単位数は、合わせて60単位を越えないものとします。(大学学則第42条参照)ただし、教員免許状取得希望者の場合、認定された科目の単位は、教員免許状取得に係る単位として証明されません。

3. 授業科目の種類と配置 授業科目の種類

各授業科目は、卒業要件として必ず履修・修得しなければならないか否かによって、以下の3つに区分されます。

授業科目の種類

必修科目	必ず履修し、単位を修得しなければならない科目
選択必修科目	指定されたいくつかの科目の中から選択履修し、各学部・学科所定の単位数を必ず修得しなければならない科目
選択科目	自由に選択履修し、必要単位数を修得する科目

上記の内容でわかるとおり、履修の際には、「必修科目」を優先して卒業要件単位を満たしていく必要があります。

また、授業の開講期間によって、1年を通じて実施する「通年科目」、前期あるいは後期で完結する「半期科目」、夏期・冬期休業期間などを利用して実施する「集中講義科目」に分かれます。

履修年次

「履修年次」とは、それぞれの授業科目を履修するのが望ましい学年のことです。履修年次は、4年間の学習を系統的に行えるよう、カリキュラムに基づいて定められています。

履修年次は「Ⅳ. 学部履修要項」部分の科目配置表に記載されていますので、それに従って科目を履修してください。

原則として、現在の学年より上級の年次に配置されている授業科目を履修することはできませんが、現在の学年より下級の年次に配置されている授業科目であれば履修することができます。ただし、例外もありますので、「Ⅳ. 学部履修要項」で確認してください。

履修順序

各学部・学科には、段階的に学習を進めるために「履修順序」が設けられた授業科目があります。これは、ある授業科目の単位を修得しなければ、その上級科目として設けられている授業科目を履修することができない、というものです。

上級に設けられた授業科目は、初級の授業科目の内容をすでに修得していることを前提とし、その次の段階から授業を始めます。したがって、初級の授業科目と上級の授業科目を同時に履修することはできません。ただし、4年次留年生は、学部・学科によっては履修順序に関係なく履修できる場合もあります。

各学部・学科の履修順序については、「Ⅳ. 学部履修要項」に記載されています。

Ⅲ. 履修について

1. 履修計画

履修計画の立案

大学においては、各学生がカリキュラムにそって履修計画を立て、受講したい科目を選択します。

授業科目には、あらかじめ登録されている「事前登録科目」（必修科目等）があり、学生はそれ以外の時限について履修計画を立てることになります。

履修計画を立てるに当たっては、カリキュラムについてよく理解し、所属学部・学科で定められた必修科目の修得と、進級や卒業に必要な履修規定上の必要条件（進級条件・卒業要件）を満たすことを優先させます。

1年間で履修申請できる単位数が決まられています。下記の(1)～(5)にそって、履修計画を立ててください。

- (1) 年度末から年度初めにかけてのオリエンテーション期間中に行われる所属学部・学科のガイダンスに出席する。

ガイダンスでは、履修上の注意や授業科目の説明が行われますので、必ず出席して最新の情報を得てください。学部・学科・学年によっては、Web配信の場合があります。

- (2) カリキュラムの内容、特徴、意義について知る。

「Ⅳ. 学部履修要項」の卒業要件単位表・科目配置表で、各授業科目がどのような分野に属しているかを確認してください。履修順序についても、ここで確認してください。

- (3) 各授業科目の講義内容を知る。

『講義内容』（「学生ポータル」の「時間割・講義内容検索」よりアクセス可能）には、各授業の詳しい授業計画などが記載されています。履修しようと思う科目の内容をよく確認してください。具体的な授業内容を知りたい場合は、履修登録期間中に受講してみる、受講時に担当者に確認するなどの方法でも講義内容を確認できます。（履修登録期間終了後は、履修登録をしていない科目を受講することはできません。）

「Ⅳ. 学部履修要項」の「履修年次」は履修が望ましい年次を表しています。履修順序などで履修が制限されることがありますので、「Ⅳ. 学部履修要項」で必ず確認し、なるべく望ましい年次での履修を心がけてください。

- (4) 卒業に必要な科目と単位数、資格に必要な科目と単位数を知る。

卒業要件単位とは、卒業に必要な最低限の単位です。教員免許状および各種資格を取得するためには、これに加えてそれぞれに必要な所定の単位を修得しなければなりません。「Ⅳ. 学部履修要項」、「Ⅹ. 教職課程（教員免許状・各種資格）について」および冊子『教職課程履修の手引』を参照し、各自の目標に合った計画を立ててください。

- (5) 履修したい科目を検討する。

どの曜日・時限に授業を履修するか、『授業時間割表』（「学生ポータル」の「授業時間割表（PDF版）」よりアクセス可能）や履修ガイダンス時に配布された資料等を参照しながら検討してください。

履修計画上の注意

履修計画に際しては、以下のことに注意してください。

- (1) 通年で1科目以上履修登録しない場合は、除籍になる可能性があります。大学側で事前に登録する科目以外に、必ず自身で1科目以上の履修登録をするようにしてください。ただし、4年生については、事前登録科目の履修のみで卒業見込みとなる場合、履修未登録の扱いにはなりません。

なお、前期に履修登録をしない場合は、後期に履修登録する意思があることを教務課まで申し出てください。

除籍に関する詳細は、授業要覧「Ⅹ. 学籍について」を参照してください。

- (2) 同一時限に、2科目以上の授業科目を重複して履修登録することはできません。（特に

許可された科目を除きます。)

- (3) 各学部・学科で1年間の履修登録単位数の限度（最高履修制限単位）が定められており、その単位数を超えて履修することはできません。
教職課程関連科目および教職課程科目については「IV. 学部履修要項」および冊子『教職課程履修の手引』を参照してください。
- (4) 既に単位を修得した科目を、再度履修登録することはできません。（特に許可された科目を除きます。）
- (5) 他キャンパスの授業科目を履修する場合、90分間の移動時間が必要です。この移動時間間に実施されている授業科目の履修はできません。
- (6) 他学部科目の履修を希望する場合、「IV. 学部履修要項」の「他学部科目一覧表」を参照してください。
- (7) 第一部の学生が第二部開講科目を履修することはできません。
- (8) 履修登録締め切り後、登録に不備や間違いがあったときは、当該科目の登録が無効となります。
- (9) 受講者数が著しく多い科目については、教室の収容人数、教育効果などを考慮して、クラスの分割・抽選などの措置を取ることがあります。

2. 履修登録

履修登録について

「履修登録」は、学期初頭に、その学期に履修を希望する授業科目を大学に登録する、大変重要な手続きです。一科目でも登録もれや登録間違いがあってはなりません。『履修登録システム利用案内』をよく読み、各自の責任において、履修登録期間内に履修登録を完了してください。履修登録期間は「学生ポータル」で確認してください。

制限科目の応募締切日時は、個々の科目により異なります。また、当選した場合は、履修を取り消すことができません。

後期開講科目であっても、前期に履修登録を行う科目がありますので、注意してください。

後期の履修登録に際しては、次の4点に注意してください。

- (1) 最高履修制限単位内で、後期科目のみの登録を行うことができます。
- (2) 通年科目を削除しなければならない登録はできません。
- (3) 前期に修得できなかった科目と同一名称科目の再履修はできません。
- (4) (2)(3)の制限にかかわらず、学部学科等から特に指定があった場合は、それに従ってください。

後期履修登録期間中に登録できる単位数は次のとおりです。

$$\begin{array}{l} \text{後期履修登録期間に} \\ \text{登録できる単位数} \\ \text{(後期科目のみ)} \end{array} = \begin{array}{l} \text{当該年度の} \\ \text{最高履修制限単位} \end{array} - \left[\begin{array}{l} \text{前期修得単位数} \\ + \\ \text{前期に修得できなかった単位数} \\ + \\ \text{履修取消科目の単位数} \\ + \\ \text{通年科目の単位数} \end{array} \right]$$

履修登録の方法

本学の履修登録は、基本的には Web 上のシステム「Web 履修登録システム」で行います。詳細については、冊子『履修登録システム利用案内』を参照してください。

履修登録方法は次のとおりです。

【登録番号と履修登録方法】

『授業時間割表』の登録番号表示	履修登録方法
数字 5 桁で表示されている	Web 履修登録システムを利用して、自分で登録できます。履修登録期間内であれば、自分で削除することもできます。
+++++	Web で抽選または選考を行う科目です。Web 履修登録システムの「制限科目申請」から応募してください。抽選・選考の結果、履修登録された科目は、削除することはできません。曜日時限等に間違いのないよう、注意して応募してください。また、受付期間が科目によって異なりますので、注意してください。
*****	Web 以外で抽選または選考を行う科目です。所定の日時・場所（オリエンテーション期間中や初回授業等）で申請してください。申請方法については、『学年初頭行事』や『講義内容』、学部・学科等の指示に従ってください。抽選・選考の結果、履修登録された科目は、削除することはできません。
#####	事前に登録済または履修登録期間中に大学側で登録を行う科目です。自分で履修登録する必要はありません。
-----	受講が許可された学生のみ登録できます。学部学科等の指示に従ってください。

【ペア科目】

ペア科目とは、同一授業科目で、週 2 回以上授業を行う科目です。『授業時間割表』には「ペア」と記載されています。『授業時間割表』に記載されている登録番号で登録してください。対応するほかの曜日・時限も自動的に登録されます。

【集中講義科目】

集中講義科目とは、曜日・時間にかかわらず、一定の期間に集中して授業を行う科目です。『授業時間割表』の各学部・学科注意事項を確認のうえ登録してください。

【健康・スポーツ演習・「スポーツ運動実習」】

『学年初頭行事』を参照のうえ、これらの科目に関するガイダンスに出席してください。

履修登録の確認と修正

履修登録最終日は、アクセスが多く、登録に時間がかかります。「混みあってアクセスできなかった」という理由は認められませんので、余裕をもって履修登録が完了するようにしてください。

エラーが表示されたら、適切に対処してください。自分で解決できない場合は、所属キャンパス教務窓口で相談してください。

登録や修正を行った後は、必ず「履修登録画面」で誤りがないか確認してください。印刷した履修登録リストは、年度末まで保管してください。確認を怠ったために生じた問題について、大学側は一切責任を負いません。

履修登録を行ったつもりで登録されていなかった科目や、誤って登録してしまった科目については、間違えたまま授業に出席し試験を受けても単位を修得することができないばかりでなく、登録していない科目の試験を受けることは不正行為とみなされ、処分の対象となります（『試験における不正行為者処分規則施行細則』第 2 条参照）ので注意してください。

期日までに履修登録をしない場合は、修学の意志がないものとして、大学学則第34条に基づき除籍処分となります。

履修取消制度について

授業の内容が勉強したいものと異なっていた場合、履修登録期間終了後の一定期間内であれば履修を取りやめることができます。

詳細は以下のとおりです。

- 1) 対象者：全学部生
 - 2) 対象科目：下記①、②を除く全科目
 - ① 事前登録科目（履修登録期間中に大学側が登録する科目を含む）
 - ② 制限科目
- ※ この他に学部・学科で対象外としている科目がある場合は「Ⅳ. 学部履修要項」に記載されていますので、参照してください。
- ※ 夏期集中科目（後期扱い）の取消は前期の履修取消期間に申請してください。
- 3) 履修取消科目の扱い：本制度を利用して取り消した前期科目と同一名称の科目を後期に履修することはできません。
 - 4) 履修取消科目の単位の扱い：本制度を利用して取り消した科目の単位数は、当該年度の申請単位数に含まれます。
 - 5) 履修取消科目の成績評価の表示：
 - ① 成績通知書：「W」
 - ② 成績証明書：記載しない。
 - 6) その他の注意事項：上記4) で説明した通り、履修取消をしても申請単位数は減りません。そのため、4年次留年生の申請単位数によって学費が計算される場合、履修取消をしても学費は減額されませんので注意してください。

履修取消申請方法

履修取消の申請は、所定の期間内に所属キャンパスの教務窓口でのみ受け付けます。申請の取り下げは一切認められません。履修取消申請受付期間は、「学生ポータル」で確認してください。

青山学院女子短期大学との単位互換制度について

本学では青山学院女子短期大学との相互交流を促進し、学生の教育研究上の必要のため、単位互換に関する協定を締結しています。

本制度の利用を希望する学生は以下を参照し、履修手続きを行ってください。

- 1) 対象者：全学部生（2018年度は女子学生のみ）
- 2) 対象学年：2年生～4年生
- 3) 対象科目：別途「学生ポータル」にて指示。
- 4) 履修方法：定められた期間内に手続きを行ってください。

手続きについての期間や詳細は「学生ポータル」で確認してください。

※ 1 履修が認められた科目の履修取消は認めません。

※ 2 受講に際しては女子短期大学の学事暦・時間割に従います。
- 5) 単位認定：所定の合格基準に達した場合は、大学の科目として単位が付与されます。成績証明書および成績通知書には「++」と表示されます。なお、単位が付与された場合でも、卒業要件には含まれません。

IV. 教育人間科学部履修要項

【1】青山スタンダード科目履修方法および配置表	13
【2】外国語科目履修方法および配置表	24

教育学科

【3】教育学科履修について	25
【4】教育学科学科科目履修方法および配置表	28
【5】自由選択科目履修方法	39

心理学科

【3】心理学科履修について	41
【4】心理学科学科科目履修方法および配置表	44
【5】自由選択科目履修方法	51

他学部科目一覧表	52
----------------	----

【1】 青山スタンダード科目履修方法および配置表

1. 全学部に通ずる教養教育の理念・目標

青山学院の教育方針は、キリスト教信仰にもとづく教育を基盤として、幅広く深い知識を授けることにより、主体的な学習能力、着実な思考力、問題解決能力および総合的な判断力を培い、愛と奉仕の精神をもってすべての人と社会とに対する責任を進んで果たす、人間性豊かで国際性に富む人材を育成することです。

本学の全学部に通ずる教養教育は、この理念をうけて、「およそ青山学院大学の卒業生であれば、どの学部・学科を卒業したかに関わりなく、一定の水準の技能・能力と一定の範囲の知識・教養をそなえているという社会的評価を受けることを到達の目標とする」として、青山スタンダード科目を開講しています。

2. 履修方法

科目の種類			必選の別	必要単位	
青 山 ス タ ン ダ ー ド 科 目	1) 教養コア	キリスト教理解関連科目	必修	2	
	2) 技能コア	言葉の技能	英語	※ 1	
			第二外国語 ※ 2 ※ 3	必修	4
		身体の技能	必修※ 4	2	
		情報の技能	必修	2	
	3) テーマ別	キリスト教理解関連科目	必修	2	
	4) 教養コア	人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目	左記 4 領域のうち 2 領域から「教養コア科目」を選択	選択必修	4
5) 領域指定	人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目	左記領域より 4) で選択しなかった 2 領域から各 1 科目 (2 単位) ずつ選択。(「教養コア科目」あるいは「テーマ別科目」いずれも可)	選択必修	4	
フレッシュヤーズ・セミナー、ウェルカム・レクチャー、キャリアデザイン・セミナー、教養コア科目、技能コア科目、テーマ別科目から選択。 〔1)～5) で修得した科目は除く〕			選択	6	

※ 1 言葉の技能・英語は、所属する学部（学科）が開講する科目を履修します。詳しくは、所属する学部（学科）の外国語科目履修方法および配置表に関するページを参照してください。(英語スキル I-1、I-2 を除く)

※ 2 第二外国語科目の中から 1 外国語を選択します (入学手続き時に申請されています)。

※ 3 第二外国語科目には、履修順序があります。

- ・第二外国語科目は、それぞれ前期の単位が修得できた者のみが後期の履修を認められます。

- ・「インテンシブ・(第二外国語)」は週に半期 4 クラスをセットとし前後期で履修登録するものです。このうち前期 4 クラスのどれか一つでも不合格となれば後期 4 クラスを履修することはできません。

- ・「インテンシブ・(第二外国語)」 「(第二外国語) II」あるいは「(第二外国語) 会話 (I)」は、「(第二外国語) I」の必要単位をすべて修得した者のみが履修を認められます。

- ・「(第二外国語) III」は、「インテンシブ・(第二外国語) (A)～(D)-1」あるいは「(第二外国語) II -2」の単位を修得した者のみが履修を認められます。

- ・「(第二外国語) 会話 (II)」は、「インテンシブ・(第二外国語) (A)～(D)-1」「(第二外国語) II -2」あるいは「(第二外国語) 会話 (I) -2」の単位を修得した者のみ履修を認められます。

※4 教育人間科学部教育・経済・経営・総合文化政策・社会情報・地球社会共生のみ必修です。

- 必要単位以上修得した場合は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます。
- 第二外国語として修得した外国語以外の第二外国語科目を修得した単位は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます。
- 受講者数の著しく多い科目については、教室の収容人数、教育効果等を考慮して、クラスの分割・抽選などの措置をとることがあります。

3. 授業科目配置表

(太字は必修科目)

		授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	備 考	
		フレッシュヤーズ・セミナー	2	1	1年生のみ	
		ウェルカム・レクチャー	2	1	1年生のみ	
		キャリアデザイン・セミナー	2	1	1年生のみ	
教 養 コ ア 科 目		(キリスト教理解関連科目) キ リ ス ト 教 概 論 I	2	1		
		(人間理解関連科目) 自己理解(総合科目)	2	1	(総合科目):複数の教員による担当	
		自己理解(個別科目)	2	1	(個別科目):一人の教員による担当	
		(社会理解関連科目) 現代社会の諸問題(総合科目)	2	1	(総合科目):複数の教員による担当	
		現代社会の諸問題(個別科目)	2	1	(個別科目):一人の教員による担当	
		(自然理解関連科目) 科学・技術の視点(総合科目)	2	1	(総合科目):複数の教員による担当	
		科学・技術の視点(個別科目)	2	1	(個別科目):一人の教員による担当	
		(歴史理解関連科目) 歴史と人間(総合科目)	2	1	(総合科目):複数の教員による担当	
		歴史と人間(個別科目)	2	1	(個別科目):一人の教員による担当	
	技 能 コ ア 科 目	英 語	英 語 ス キ ル I - 1	1	1	1年生のみ
英 語 ス キ ル I - 2			1	1	1年生のみ	
言 葉 の 技 能 第 二 外 国 語			(第二外国語) I (A)-1	1	1	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
			(第二外国語) I (A)-2	1	1	
			(第二外国語) I (B)-1	1	1	
			(第二外国語) I (B)-2	1	1	
			英 語 I - 1	1	1	フランス文学科のみ選択可。それぞれ週2 回履修し、計4単位修得してください。
			英 語 I - 2	1	1	
			英 語 (I A) - 1	1	1	外国人留学生のみ
			英 語 (I A) - 2	1	1	外国人留学生のみ
			英 語 (I B) - 1	1	1	外国人留学生のみ
			英 語 (I B) - 2	1	1	外国人留学生のみ
			日 本 語 I (A) - 1	1	1	外国人留学生のみ
			日 本 語 I (A) - 2	1	1	外国人留学生のみ
			日 本 語 I (B) - 1	1	1	外国人留学生のみ
			日 本 語 I (B) - 2	1	1	外国人留学生のみ
身 体 の 技 能		健 康 ・ ス ポ ー ツ 演 習	2	1	教育人間科学部教育・経済・経営・総合文化 政策・社会情報・地球社会共生のみ必修	
情 報 の 技 能		情 報 ス キ ル I	2	1		
テ ー マ 別 科 目	キ 連 科 目 キ リ ス ト 教 理 解 関 連 (領 域 A)	キ リ ス ト 教 概 論 II	2	2・3	理工学部・社会情報学部は2年次 他は3年次配置	
		旧 約 聖 書 と 人 間	2	2・3・4		
		新 約 聖 書 と 人 間	2	2・3・4		
		キ リ ス ト 教 生 命 倫 理	2	2・3・4		

キリスト教理解関連科目 (領域A)	キリスト教政治倫理	2	2・3・4	
	キリスト教と自然科学	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講
	キリスト教環境倫理	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講
	キリスト教音楽	2	2・3・4	
	キリスト教美術	2	2・3・4	
	メソジスト教会史	2	2・3・4	
	世界の諸宗教	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講
	聖書の中の女性たち(旧約)	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講
	聖書の中の女性たち(新約)	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講
	サービス・ラーニングⅠ	2	2・3・4	
	サービス・ラーニングⅡ	2	2・3・4	
	海外語学・キリスト教文化研修	2	2・3・4	
	テ ー マ 別 科 目 人 間 理 解 関 連 科 目 (領域B)	哲 学 A	2	2・3・4
哲 学 B		2	2・3・4	
哲学の諸問題 A		2	2・3・4	
哲学の諸問題 B		2	2・3・4	
哲学の諸問題 C		2	2・3・4	
哲学の諸問題 D		2	2・3・4	
論 理 学 A		2	2・3・4	
論 理 学 B		2	2・3・4	
論理学の諸問題 A		2	2・3・4	
論理学の諸問題 B		2	2・3・4	
倫 理 学 A		2	2・3・4	
倫 理 学 B		2	2・3・4	
倫理学の諸問題 A		2	2・3・4	
倫理学の諸問題 B		2	2・3・4	
西洋倫理思想史 A		2	2・3・4	
西洋倫理思想史 B		2	2・3・4	
言 語 学 A		2	2・3・4	
言 語 学 B		2	2・3・4	
日 本 語 学 A		2	2・3・4	
日 本 語 学 B		2	2・3・4	
文 学 A		2	2・3・4	
文 学 B		2	2・3・4	
文 学 史 A		2	2・3・4	
文 学 史 B		2	2・3・4	
美 術 A		2	2・3・4	
美 術 B		2	2・3・4	
美術史 A		2	2・3・4	
美術史 B	2	2・3・4		
音 楽 A	2	2・3・4		
音 楽 B	2	2・3・4		

テ マ 別 科 目	人間理解関連科目 (領域B)	音楽史 A	2	2・3・4		
		音楽史 B	2	2・3・4		
		文化人類学 A	2	2・3・4		
		文化人類学 B	2	2・3・4		
		比較文化 A	2	2・3・4		
		比較文化 B	2	2・3・4		
		比較文化の諸問題 A	2	2・3・4		
		比較文化の諸問題 B	2	2・3・4		
		心理学 A	2	2・3・4	心理学科除く	
		心理学 B	2	2・3・4	心理学科除く	
		教育学 A	2	2・3・4		
		教育学 B	2	2・3・4		
		平和を考える A	2	2・3・4		
		平和を考える B	2	2・3・4		
		人間関係とコミュニケーション A	2	2・3・4		
		人間関係とコミュニケーション B	2	2・3・4		
		文化とコミュニケーション A	2	2・3・4		
		文化とコミュニケーション B	2	2・3・4		
		社会理解関連科目 (領域C)	法学(日本国憲法を含む) A	2	2・3・4	法学部除く。教員免許状取得申請者は、1年次から履修できます。
			法学(日本国憲法を含む) B	2	2・3・4	
	日本の法と社会 A		2	2・3・4		
	日本の法と社会 B		2	2・3・4		
	国際政治経済学 A		2	2・3・4		
	国際政治経済学 B		2	2・3・4		
	国際関係概論 A		2	2・3・4		
	国際関係概論 B		2	2・3・4		
	社会学 A		2	2・3・4		
	社会学 B		2	2・3・4		
	現代社会と教育人間学 A		2	2・3・4		
	現代社会と教育人間学 B		2	2・3・4		
	経済学 A		2	2・3・4	経済学部除く	
	経済学 B		2	2・3・4	経済学部除く	
	情報社会科学 A		2	2・3・4		
	情報社会科学 B		2	2・3・4		
	情報社会論		2	2・3・4		
	社会と情報		2	2・3・4		
	人口問題 A		2	2・3・4		
	人口問題 B		2	2・3・4		
	フェミニズム A	2	2・3・4			
	フェミニズム B	2	2・3・4			
	民族問題 A	2	2・3・4			
	民族問題 B	2	2・3・4			

テ ー マ 別 科 目	社会理解関連科目 (領域C)	マスメディアと社会	2	2・3・4	
		データサイエンス	2	2・3・4	
		福祉と人間 A	2	2・3・4	
		福祉と人間 B	2	2・3・4	
		環境問題と社会	2	2・3・4	NPO 環境平和持続の会寄附講座
		金融と生活設計	2	2・3・4	金融広報中央委員会寄附講座
		日本の農業・農村とビジネス	2	2・3・4	
		技術史 A	2	2・3・4	
	技術史 B	2	2・3・4		
	日常生活の数理	2	2・3・4		
	数理科学入門 I	2	2・3・4	理工学部・社会情報学部を除く	
	数理科学入門 II	2	2・3・4	理工学部・社会情報学部を除く	
	数理科学の視点	2	2・3・4		
	数理モデル	2	2・3・4		
	自然科学概論 A	2	2・3・4		
	自然科学概論 B	2	2・3・4		
	文化としての科学・技術 A	2	2・3・4		
	文化としての科学・技術 B	2	2・3・4		
	生活と先端テクノロジー	2	2・3・4		
	ライフサイエンス	2	2・3・4		
	ゲノム	2	2・3・4		
	生物と地球環境	2	2・3・4		
	地球環境保全	2	2・3・4		
	バイオテクノロジーと生命倫理	2	2・3・4		
	メカの世界	2	2・3・4		
	生命と地球の歴史	2	2・3・4		
	宇宙科学	2	2・3・4		
	野鳥の生態	2	2・3・4		
	鳥類と生物多様性	2	2・3・4		
	植物生態学	2	2・3・4		
	先端エレクトロニクス	2	2・3・4		
	環境科学 A	2	2・3・4		
	環境科学 B	2	2・3・4		
	自然地理学 A	2	2・3・4		
自然地理学 B	2	2・3・4			
科学史	2	2・3・4			
生命と生態系(環境と生物)	2	2・3・4			
生命の連続(遺伝)	2	2・3・4			
かたちの科学	2	2・3・4			
自然史	2	2・3・4			
自然観の変遷	2	2・3・4			
	自然理解関連科目 (領域D)				

歴史理解関連科目 (領域E)	青山学院大学の歴史	2	2・3・4		
	日本社会史 A	2	2・3・4		
	日本社会史 B	2	2・3・4		
	日本社会史 C	2	2・3・4		
	中国史 A	2	2・3・4		
	中国史 B	2	2・3・4		
	ヨーロッパ史 A	2	2・3・4		
	ヨーロッパ史 B	2	2・3・4		
	ヨーロッパ史 C	2	2・3・4		
	現代史 A	2	2・3・4		
	現代史 B	2	2・3・4		
	現代史 C	2	2・3・4		
	現代史 D	2	2・3・4		
	考古学 A	2	2・3・4		
	考古学 B	2	2・3・4		
	科学思想史 A	2	2・3・4		
テ ー マ 別 科 目	インテンシブ・(第二外国語)(A)-1	1	2・3・4	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。	
	インテンシブ・(第二外国語)(A)-2	1	2・3・4		
	インテンシブ・(第二外国語)(B)-1	1	2・3・4		
	インテンシブ・(第二外国語)(B)-2	1	2・3・4		
	インテンシブ・(第二外国語)(C)-1	1	2・3・4		
	インテンシブ・(第二外国語)(C)-2	1	2・3・4		
	インテンシブ・(第二外国語)(D)-1	1	2・3・4		
	インテンシブ・(第二外国語)(D)-2	1	2・3・4		
	言葉の技能 (領域F)	(第二外国語) II (A) - 1	1	2・3・4	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語を指します。
		(第二外国語) II (A) - 2	1	2・3・4	
		(第二外国語) II (B) - 1	1	2・3・4	
		(第二外国語) II (B) - 2	1	2・3・4	
		(第二外国語) II (C) - 1	1	2・3・4	(第二外国語) はロシア語、韓国語を指します。
		(第二外国語) II (C) - 2	1	2・3・4	
		(第二外国語) II - 1	1	2・3・4	(第二外国語) はロシア語、韓国語を指します。
		(第二外国語) II - 2	1	2・3・4	
英語 II - 1		1	2・3・4	フランス文学科のみ	
英語 II - 2		1	2・3・4		
英語 (II A) - 1	1	2・3・4	外国人留学生のみ		
英語 (II A) - 2	1	2・3・4			
英語 (II B) - 1	1	2・3・4			
英語 (II B) - 2	1	2・3・4			
日本語 II - 1	1	2・3・4	外国人留学生のみ		
日本語 II - 2	1	2・3・4			

テ ー マ 別 科 目	言葉の技能 (領域F)	(第二外国語)Ⅲ-1	1	3・4	(第二外国語)はドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
		(第二外国語)Ⅲ-2	1	3・4	
		フランス語Ⅲ(A)-1	1	3・4	フランス文学科除く
		フランス語Ⅲ(A)-2	1	3・4	
		フランス語Ⅲ(B)-1	1	3・4	
		フランス語Ⅲ(B)-2	1	3・4	
		英語Ⅲ-1	1	3・4	フランス文学科のみ
		英語Ⅲ-2	1	3・4	
		英語(Ⅲ)-1	1	3・4	外国人留学生のみ
		英語(Ⅲ)-2	1	3・4	
		日本語Ⅲ-1	1	3・4	外国人留学生のみ
		日本語Ⅲ-2	1	3・4	
		(第二外国語)会話(Ⅰ)-1	1	2・3・4	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語(フランス文学科のみ)を指します。
		(第二外国語)会話(Ⅰ)-2	1	2・3・4	
		(第二外国語)会話(Ⅱ)-1	1	3・4	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
		(第二外国語)会話(Ⅱ)-2	1	3・4	
		日本語(ⅠS)A	1	3	交換留学生のみ
		日本語(ⅠF)A	1	3	
		日本語(ⅠS)B	1	3	
		日本語(ⅠF)B	1	3	
		日本語(ⅠS)C	1	3	
		日本語(ⅠF)C	1	3	
		日本語(ⅠS)D	1	3	
		日本語(ⅠF)D	1	3	
		日本語(ⅡS)A	1	3	
		日本語(ⅡF)A	1	3	
		日本語(ⅡS)B	1	3	
		日本語(ⅡF)B	1	3	
		日本語(ⅡS)C	1	3	
		日本語(ⅡF)C	1	3	
		日本語(ⅡS)D	1	3	
		日本語(ⅡF)D	1	3	
日本語(ⅢS)A	1	3			
日本語(ⅢF)A	1	3			
日本語(ⅢS)B	1	3			
日本語(ⅢF)B	1	3			
日本語(ⅢS)C	1	3			
日本語(ⅢF)C	1	3			
日本語(ⅢS)D	1	3			
日本語(ⅢF)D	1	3			

テ ー マ 別 科 目	言葉の技能(領域F)	日本語(IV S) A	1	3	交換留学生のみ
		日本語(IV F) A	1	3	
		日本語(IV S) B	1	3	
		日本語(IV F) B	1	3	
		日本語(IV S) C	1	3	
		日本語(IV F) C	1	3	
		日本語(IV S) D	1	3	
		日本語(IV F) D	1	3	
		日本語(V S) A	1	3	
		日本語(V F) A	1	3	
		日本語(V S) B	1	3	
		日本語(V F) B	1	3	
		日本語(V S) C	1	3	
		日本語(V F) C	1	3	
		日本語(V S) D	1	3	
		日本語(V F) D	1	3	
		日本語(VI S) A	1	3	
		日本語(VI F) A	1	3	
		日本語(VI S) B	1	3	
		日本語(VI F) B	1	3	
		日本語(VI S) C	1	3	
		日本語(VI F) C	1	3	
		日本語(VI S) D	1	3	
		日本語(VI F) D	1	3	
		日本語(VII S) A	1	3	
		日本語(VII F) A	1	3	
		日本語(VII S) B	1	3	
		日本語(VII F) B	1	3	
		日本語(VII S) C	1	3	
		日本語(VII F) C	1	3	
		日本語(VII S) D	1	3	
		日本語(VII F) D	1	3	
		日本事情(I S)	2	3	
		日本事情(I F)	2	3	
		日本事情(II S)	2	3	
		日本事情(II F)	2	3	
日本事情(III S)	2	3			
日本事情(III F)	2	3			
日本事情(IV S)	2	3			
日本事情(IV F)	2	3			
日本事情(V S)	2	3			
日本事情(V F)	2	3			

テ マ 別 科 目	言葉の技能 (領域F)	日本事情 (VI S)	2	3	交換留学生のみ
		日本事情 (VI F)	2	3	
		日本事情 (VII S)	2	3	
		日本事情 (VII F)	2	3	
		アメリカ合衆国の社会と文化A	2	2・3・4	
		アメリカ合衆国の社会と文化B	2	2・3・4	
		アメリカ合衆国の社会と文化C	2	2・3・4	
		英語圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		英語圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		フランス語圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		フランス語圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		フランス語圏の社会と文化C	2	2・3・4	
		ドイツ語圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		ドイツ語圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		ドイツ語圏の社会と文化C	2	2・3・4	
		スペイン語圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		スペイン語圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		スペイン語圏の社会と文化C	2	2・3・4	
		中国語圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		中国語圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		中国語圏の社会と文化C	2	2・3・4	
		ロシア語圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		ロシア語圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		韓国・朝鮮の社会と文化A	2	2・3・4	
		韓国・朝鮮の社会と文化B	2	2・3・4	
		イスラム圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		イスラム圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		日 本 学 A	2	2・3・4	交換留学生・外国人留学生のみ
		日 本 学 B	2	2・3・4	交換留学生・外国人留学生のみ
		English Studies A	2	2・3・4	
		English Studies B	2	2・3・4	
		English Studies C	2	2・3・4	
		English Studies E	2	2・3・4	
		ことばの研究A	2	2・3・4	
ことばの研究B	2	2・3・4			
都市と文化A	2	2・3・4			
都市と文化B	2	2・3・4			
民族文化論A	2	2・3・4			
民族文化論B	2	2・3・4			
身体 (領域C)	健康医学	2	2・3・4		
	スポーツ生理学	2	2・3・4		
	スポーツバイオメカニクス	2	2・3・4		

テ ー マ 別 科 目	身体 の 技 能 (領 域 G)	ス ポ ー ツ 心 理 学	2	2・3・4	
		動 き の 人 間 学	2	2・3・4	
		医 療 社 会 学	2	2・3・4	
		ス ポ ー ツ 運 動 実 習	1	2・3・4	4回まで重複履修を認めます。教員免許状 取得申請者は、1年次から履修できます。
		ア ド バ ン ス ト ス ポ ー ツ 実 習	2	2・3・4	
	情 報 の 技 能 (領 域 H)	ウ ェ ブ プ ロ グ ラ ミ ン グ	2	2・3・4	
		コ ン ピ ユ ー タ プ ロ グ ラ ミ ン グ	2	2・3・4	
		コ ン ピ ユ ー タ と 社 会	2	2・3・4	
		デ ー タ 分 析 入 門	2	2・3・4	
		情 報 ス キ ル Ⅱ	2	2・3・4	
	キ ャ リ ア の 技 能 (領 域 I)	キ ャ リ ア デ ザ イ ン 基 礎	2	2・3・4	
		キ ャ リ ア デ ザ イ ン 応 用	2	3・4	
		仕 事 力 基 礎 論	2	2・3・4	
		国 際 ビ ジ ネ ス 入 門 A	2	2・3・4	
		国 際 ビ ジ ネ ス 入 門 B	2	2・3・4	
		感 性 ビ ジ ネ ス A - フ ァ ッ シ ョ ン 産 業 の フ ロ ン テ ィ ア ー	2	2・3・4	
		感 性 ビ ジ ネ ス B - フ ァ ッ シ ョ ン 産 業 の フ ロ ン テ ィ ア ー	2	2・3・4	
		感 性 ビ ジ ネ ス C - フ ァ ッ シ ョ ン ・ ビ ジ ネ ス 戦 略 論	2	2・3・4	(財)ファッション産業人材育成機構(IFI)寄附 講座
		感 性 ビ ジ ネ ス D - フ ァ ッ シ ョ ン ・ ビ ジ ネ ス 戦 略 論	2	2・3・4	(財)ファッション産業人材育成機構(IFI)寄附 講座
		パ ー ソ ナ ル ・ マ ネ ー ・ マ ネ ジ メ ン ト 入 門	2	2・3・4	三井生命保険株式会社寄附講座
		国 際 ビ ジ ネ ス と 海 外 事 情 A	2	2・3・4	
		国 際 ビ ジ ネ ス と 海 外 事 情 B	2	2・3・4	
		現 代 金 融 の 諸 問 題	2	2・3・4	金融青山会寄附講座
		囲 碁 で 養 う ロ ジ カ ル シ ン キ ン グ	2	2・3・4	公益財団法人日本棋院寄附講座
		海 外 語 学 ・ 文 化 研 修 Ⅰ	2	2・3・4	
		海 外 語 学 ・ 文 化 研 修 Ⅱ	2	2・3・4	
		海 外 語 学 ・ 文 化 研 修 Ⅲ	2	2・3・4	
		イ ン タ ー ン シ ッ プ Ⅰ	2	2・3・4	
		イ ン タ ー ン シ ッ プ Ⅱ	2	2・3・4	
		イ ン タ ー ン シ ッ プ Ⅲ	2	2・3・4	
	世 界 遺 産 入 門	2	2・3・4	NPO 法人世界遺産アカデミー寄附講座	
	営 業 学 入 門	2	2・3・4	プルデンシャル生命保険株式会社寄附講座	

【2】 外国語科目履修方法および配置表

1. 外国語 I の履修方法 (1) 外国語の必修単位 (10単位)

	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
必 修	Comprehensive English IA	1	1	
	Comprehensive English IB	1	1	
	Comprehensive English IA	1	2	
	Comprehensive English IB	1	2	
	Oral English IA	1	1	
	Oral English IB	1	1	
	Oral English IA	1	2	
	Oral English IB	1	2	
	Academic Writing A	1	2	
	Academic Writing B	1	2	

注) 他学科の外国語 I は、原則として履修できません (指定されたクラスで受講してください。)

(2) 履修順序

1	2
	1 が合格した場合のみ履修できます
Comprehensive English IA	Comprehensive English IIA
	Comprehensive English IIB

【3】 教育学科履修について

1. 卒業要件

(1) 卒業に必要な単位数について

卒業資格を得るためには、下表の各科目種別について定める単位数を修得しなければなりません。ここに示す単位数は種別ごとの最低の単位数であり、これが1単位でも不足すると卒業は認められません。

卒業に必要な最低単位数

	青山 スタンダード 科目	外国語 科目 外国語 I	学 科 科 目			自由 選択 科目	卒業要件 単位数
			各コース共通		選択 必修		
			必修	選択必修			
人間形成探究コース	26	10	30	12	16	34	128
臨床教育・ 生涯発達コース	26	10	30	12	16	34	128
教育情報・ メディアコース	26	10	30	12	16	34	128
幼児教育学コース	26	10	30	12	38	12	128
児童教育学コース	26	10	30	12	46	4	128

青山スタンダード科目の履修については青山スタンダード科目履修方法および配置表を参照してください。

(2) 学位について

教育人間科学部教育学科に4年以上（ただし、8年を限度とします）在学し、卒業に必要な要件を満たした者には、学位記を与え、学士（教育学）の学位を授与します。

(3) コース決定について

教育学科は上記表に記載のとおり、5つのコースに分かれています。

コースの概要は以下のとおりです。

1 人間形成探究コース

人間形成というテーマを、歴史学、哲学、宗教学、倫理学、文化人類学、言語学などの観点から幅広く探究します。人間観、教育観の歴史的な変遷、家庭、文化、社会と人間の関わり方の考察を通して、現代の人間と教育を根本から捉え直します。

2 臨床教育・生涯発達コース

人間の乳幼児期から老年期に至るライフサイクルの中で、発達、学習、教育がどのように実現されているかについて、その理論および実際を学びます。カリキュラムでは、人の生涯における発達現象とそれともなう臨床的問題、学校外教育、地域社会と学校教育の連携などが中心的なテーマとなります。

3 教育情報・メディアコース

情報環境の中で生活し、そこで学び、発達する人間を多様な観点から捉えます。情報の伝達的な側面を情報社会学、図書館情報学の観点から、情報の受容・理解・創造の側面を認知科学、発達、学習科学から研究します。また、よりよい学習環境の開発のため、教育メディア開発の研究も行います。

4 幼児教育学コース

将来、幼児教育に携わることをめざす学生のために、幼児の発達・教育の理論と実践的知識を学習する科目を多数用意しています。幼児教育原理、保育内容総論などの科目をとおして理論的知識を、保育内容教育法、幼児教育実習などの科目を通して実践的知識を身につけます。

5 児童教育学コース

将来、児童教育に携わることを目指す学生のために、児童、生徒の発達、学習、教育に関わる科目が体系的に用意されています。学校教育学総論、教育方法、教職論などの科目を通して基礎的な知識を学習し、各教科教育法などを通して、教育者としての実践的知識を獲得します。

◎コースの決定

コース決定については、2年次10月ごろまでにコース登録オリエンテーションを行いますので、必ず出席してください。開催日時やコース登録方法等の詳細は「学生ポータル」でお知らせします。

ただし、1年次から、コース選択のことも考えて、科目を履修してください。3年次からは、決定したコースごとに必要な科目を履修し、卒業要件単位を満たすことで、卒業することができます。

いったん決定したコースは変更することができませんので、十分検討のうえ、決定してください。

なお、教育職員免許状・各種資格の取得に関しては、科目の履修順序が定められていますので、3年次から取得を始めることができない場合があります。十分留意してください。

2. 最高履修制限単位

最高履修制限単位は次のとおりです。各年次ともこの単位を超えて履修することはできません。

なお、各年次においては、1科目以上の履修をしなくてはなりません。

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	合計
44	48	48	48	188

◎教育職員免許状の取得を希望する場合、下記の教職課程科目を、上記制限単位外で履修することができます。

- ・幼稚園 幼児教育実習Ⅰ、幼児教育実習Ⅱ、教職実践演習（幼）
- ・小学校 初等教育実習Ⅰ、初等教育実習Ⅱ、教職実践演習（小）
- ・中学校（国語、社会、英語）および高等学校（国語、地理歴史、公民、英語）
中等教育実習Ⅰ、中等教育実習ⅡA、ⅡB、教職実践演習（中・高）
各教科教育法、各教科教材論（英語は教育法特論）
教育課程編成法（中等）、道徳教育指導法（中等）、特別活動論（中等）、
教育方法の研究（中等）、生徒・進路指導論（中等）、教育相談（中等）

3. 進級条件

- (1) 1年次終了時に8単位以上修得しなければ2年次に進級できません。
- (2) 2年次終了時に50単位以上修得しなければ3年次に進級できません。

4. 修得単位僅少者について

入学後の2年間（休学期間を除きます）で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込のない者として除籍されることがありますので、該当しないよう特に注意してください。

5. 外国人留学生の外国語科目の履修について

外国語科目（外国語Ⅰ、外国語Ⅱ）は、入学手続き時に申請した科目を必ず履修してください。なお、履修方法は次のとおりです。

(1) 外国語 I の必要単位 (10単位)

(太字は必修科目)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	履 修 順 序	備 考
日 本 語 初 級 A - 1	各	1		
日 本 語 初 級 A - 2			日本語初級 A-1 修得者のみ履修可	
日 本 語 初 級 B - 1				
日 本 語 初 級 B - 2			日本語初級 B-1 修得者のみ履修可	
日 本 語 初 級 C - 1				
日 本 語 初 級 C - 2			日本語初級 C-1 修得者のみ履修可	
日 本 語 中 級 A - 1	1	2		中級 A または 中級 B のどち らかを選択必 修
日 本 語 中 級 A - 2			日本語中級 A-1 修得者のみ履修可	
日 本 語 中 級 B - 1				
日 本 語 中 級 B - 2			日本語中級 B-1 修得者のみ履修可	
日 本 語 上 級 - 1	1	3		
日 本 語 上 級 - 2			日本語上級-1 修得者のみ履修可	

- 注 1) 必修10単位を超えて修得した場合は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。
 注 2) 各授業科目間の履修順序はつきません。ただし、前期開講科目と後期開講科目の間にそれぞれ履修順序があり、前期開講科目の単位が修得できない時、後期開講科目の履修登録は自動的に削除されます。なお、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。
 注 3) 原則として外国語 I は日本語ですが、特に英語を外国語 I として履修するよう指定を受けた者は一般学生と同じ科目を10単位修得してください。

(2) 言葉の技能 (外国語 II) の必要単位 (4 単位)

母国語以外の下記科目中より、初級 4 単位を修得してください。

フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語

- 注 1) 入学手続き時に申請した科目の II、III および会話の単位を修得した場合は、テーマ別科目として卒業に必要な単位に算入されます。
 注 2) 各授業科目間の履修順序はつきません。ただし、1 年次配置前期開講科目と後期開講科目の間にそれぞれ履修順序があり、前期開講科目の単位が修得できない時、後期開講科目の履修登録は自動的に削除されます。なお、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。
 注 3) 英語を外国語 I として履修するよう指定を受けた者は、日本語を外国語 II とすることができます。この場合、英語は外国語 II とはなりません。
 注 4) 入学手続き時に申請した科目以外の I、II、III および会話の単位を修得した場合は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。この場合、各授業科目間の履修順序はつきません。ただし各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。
 注 5) 本学入学以前に、高等学校あるいは海外等で既に学習したことのある者が、その学力を I の科目の修了者に準ずると認定された場合、II の科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

【4】 教育学科学科科目履修方法および配置表

1. 学科科目履修方法

(1) 学科科目の必要単位

【各コース共通】 必修 および 選択必修

必修〔30単位〕

教育学概説〔2〕 教育心理学概説〔2〕 教育制度概説〔2〕 教育思想概説〔2〕
 教育学研究法〔2〕 基礎演習Ⅰ〔2〕 基礎演習Ⅱ〔2〕 応用演習Ⅰ〔2〕
 応用演習Ⅱ〔2〕 専門演習Ⅰ〔2〕 専門演習Ⅱ〔2〕 卒業研究Ⅰ〔4〕
 卒業研究Ⅱ〔4〕

選択必修〔12単位〕

選択必修科目 A (学科科目配置表で種別欄に A を付した授業科目、以下「共通科目 A」という。)の中から 6 単位と、選択必修科目 B (学科科目配置表で種別欄に B を付した授業科目、以下「共通科目 B」という。)の中から 6 単位。合計12単位選択必修。

ただし、A、B 各 6 単位ずつ、合計12単位を超えて修得した場合は、その科目が属する群の修得単位とします。

共通科目 A

人間形成学総論〔2〕 教育社会学総論〔2〕 臨床教育学総論〔2〕
 教育情報学総論〔2〕 メディア・コミュニケーション総論〔2〕
 幼児教育原理 A〔2〕 学校教育学総論〔2〕 初等教育原理 A〔2〕

共通科目 B

宗教教育学〔2〕 キャリア教育 A〔2〕 社会福祉概論〔2〕
 生涯学習概論Ⅰ〔2〕 高等教育論 A〔2〕 認知科学概論〔2〕
 図書館情報学概論〔2〕 臨床保育学 A〔2〕
 教職論〔2〕 教育方法論(初等)〔2〕 教育課程論(初等)〔2〕

【コース別】 選択必修 および 自由選択

人間形成探究コース〔選択必修16単位、自由選択34単位〕

- ・科目配置表第Ⅰ群の科目の中から選択必修16単位
- ・自由選択34単位

臨床教育・生涯発達コース〔選択必修16単位、自由選択34単位〕

- ・科目配置表第Ⅰ群の①の科目、第Ⅱ群の科目、第Ⅳ群の④の科目の中から選択必修16単位
- ・自由選択34単位

教育情報・メディアコース〔選択必修16単位、自由選択34単位〕

- ・科目配置表第Ⅲ群の科目の中から選択必修16単位
- ・自由選択34単位

幼児教育学コース〔選択必修38単位、自由選択12単位〕

- ・科目配置表第Ⅳ群の科目、第Ⅴ群の⑤の科目の中から選択必修38単位
- ・自由選択12単位

児童教育学コース〔選択必修46単位、自由選択 4 単位〕

- ・科目配置表第Ⅴ群の科目の中から選択必修46単位
- ・自由選択 4 単位

(2) 「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」について

原則、同一年度に同一教員の「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」と履修するものとします。

専門演習を履修する学生を対象として、11月～12月に「専門演習予備登録」を行う予定です。詳細については、学生ポータルや掲示等で知らせますので注意してください。

(3) 「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」について

- (イ) 「卒業研究Ⅰ」は前期履修登録期間、「卒業研究Ⅱ」は後期履修登録期間にそれぞれ履修登録を行います。「卒業研究Ⅱ」は履修登録時において、履修登録科目を含め、その年度に卒業見込となるものでなければ履修できません。
- (ロ) 指導教員は教育学科教員とし、原則、同一年度に同一教員の「卒業研究Ⅰ」、「卒業研究Ⅱ」を履修するものとします。
- (ハ) 「卒業研究Ⅱ」は、「卒業研究Ⅰ」の単位を修得できた場合のみ、履修することができません。「卒業研究Ⅰ」の単位が修得できなかった場合、翌年度以降に再度「卒業研究Ⅰ」を履修します。
- (ニ) 担当教員によっては、人数制限をすることがあります。
- (ホ) 研究成果の提出方法等について

4月

- ・「卒業研究Ⅰ」履修登録……事前に指導を希望する教員と面談して了承を得てから、Web履修登録システムを使用して各自で履修登録を行なってください。
- ・指導教員登録票の提出……履修登録後、教育学科合同研究室（14号館9階）で配布する「指導教員登録票」に記入し、指定の期間に合同研究室に提出してください。「登録票」を期日までに提出しない場合は、「卒業研究Ⅰ」の登録が無効になる場合がありますので、注意してください。「登録票」には指導教員の署名を必要としますので、余裕をもって準備をしてください。

7月

- ・題目届の提出……教育学科合同研究室で配付する「卒業研究題目届」に記入し、指定の期間に同研究室に提出してください。「題目届」を期日までに提出しない場合は、卒業研究を提出できない場合がありますので、注意してください。「題目届」には指導教員の署名を必要としますので、余裕をもって準備してください。

9月

- ・「卒業研究Ⅱ」履修登録……Web履修登録システムを使用して各自で履修登録を行なってください。担当教員は「卒業研究Ⅰ」の教員と同一とします。

1月

- ・研究成果（論文等）の提出……研究の成果は、論文形式の「卒業研究」にまとめて、指定の期間に学務部教務課へ提出してください。提出期限に遅れた場合は、いかなる理由があっても一切受け付けませんので、余裕をもって準備をしてください。なお、「卒業研究」（論文等）には、所定様式の「卒業研究要旨」を添えてください。

- (ヘ) 留学などの理由によって、例外的な履修が可能または必要となる場合があります。事前に教務課に相談のうえ、教育学科および指導教員の許可を得てください。
- (ト) 「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」を履修するにあたっては、2年次あるいは3年次において、当該教員の講義または演習を履修していることが望ましい。なお、原則として「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」と同一の教員とします。

(4) 同一科目の履修について

既に合格した科目を再度履修することはできません。

ただし、教育学科科目の「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」は、同一科目であっても、担当者が異なる場合、あるいは講義内容が異なる場合は、履修することができます。また、教育学科科目の「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」は、同一年度に両科目の単位が修得できなかった場合などには再度履修する必要が生じることがあります。

(5) 履修順序について

1		2	3	
教育学科学科科目		1が合格した場合のみ履修できます	「**実習Ⅰ」が合格した場合のみ同じ種類の 実習Ⅱおよび「教職実践演習」を履修できます。	
		教職課程科目		
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)	(4年次配置科目)	
教育制度概説	教職論	幼児教育実習Ⅰ	幼児教育実習Ⅱ	教職実践演習(幼)
教育思想概説		初等教育実習Ⅰ	初等教育実習Ⅱ	教職実践演習(小)
教育心理学概説		中等教育実習Ⅰ	中等教育実習Ⅱ	教職実践演習(中・高)

3を履修するためには、2で指定された科目以外にも取得しておくべき科目がありますので、教員免許状取得に必要な科目の履修順序(P69)を、必ず参照してください。

1	2	
	1が合格した翌年度以降に履修できます	
図書館情報学概論	情報サービス論Ⅱ メディア組織法Ⅱ	情報サービス論Ⅲ メディア組織法Ⅲ

(6) 他学部、他学科の学生の本学科学科科目の履修について

教育学科学科科目のうち、下記授業科目は他学部、他学科の学生の履修を認めません。

ただし、*1の科目は心理学科の学生、

*2の科目は社会教育主事資格取得希望申請者、

*3の科目は司書資格取得希望申請者、

*4の科目は司書教諭資格取得希望申請者が履修可能です。

履修不可科目

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
教育学概説	2	教育心理学概説	2
教育制度概説	2	教育思想概説	2
教育学研究法	2	基礎演習	2
教職総合演習	2	応用演習Ⅰ	2
応用演習Ⅱ	2	専門演習	4
卒業研究	8	人間形成学総論	2
日本教育史Ⅰ*1	2	日本教育史Ⅱ*1	2
宗教教育学*1	2	教育社会学総論	2
比較発達社会学*1	2	生涯発達心理学Ⅰ	2
生涯発達心理学Ⅱ	2	キャリア教育A*1	2
家庭教育A*1	2	家庭教育B*1	2
臨床教育学総論	2	社会福祉概論*1	2
臨床心理学概論Ⅰ	2	臨床心理学概論Ⅱ	2
相談心理学Ⅰ	2	相談心理学Ⅱ	2
障害児・者の心理Ⅰ	2	障害児・者の心理Ⅱ	2
障害児・者の施設実習	2	障害児・者の教育	2
障害児・者の福祉	2	障害児・者の医学	2
社会教育課題研究*2	4	教育情報学総論	2
メディア・コミュニケーション総論	2	学校経営と学校図書館*2*4	2
学習指導と学校図書館*4	2	学校図書館メディア*4	2
情報メディア利用論*4	2	読書教育論*4	2

社会心理学 I	2	社会心理学 II	2
教育学特論 J * 3	2	図書館情報学概論 * 2 * 3	2
図書館システムサービス論 * 3	2	図書館情報文化論 * 3	2
図書館システム経営論 * 3	2	情報メディア論 A * 3	2
情報メディア論 B * 3	2	情報メディア論 C * 3	2
児童サービス論 * 3	2	メディア組織法 I * 3	2
メディア組織法 II * 3	2	メディア組織法 III * 3	2
情報サービス論 I * 3	2	情報サービス論 II * 3	2
情報サービス論 III * 3	2	情報技術論 * 3	2
図書館情報学実習 A * 3	2	図書館情報学実習 B * 3	2
教育学特論 K * 3	2	幼児教育原理 A	2
幼児教育原理 B * 1	2	臨床保育学 A	2
臨床保育学 B	2	保育方法研究 A	2
保育方法研究 B	2	保育内容総論 A	2
保育内容総論 B	2	保育内容教育法 (健康)	2
保育内容教育法 (人間関係)	2	保育内容教育法 (環境)	2
保育内容教育法 (ことば)	2	保育内容教育法 (表現 A)	2
保育内容教育法 (表現 B)	2	学校教育学総論	2
初等教育原理 A	2	初等教育原理 B * 1	2
教職論	2	教育方法論 (初等)	2
教育課程論 (初等)	2	初等教科教育法 (国語科)	2
初等教科教育法 (算数科)	2	初等教科教育法 (理科)	2
初等教科教育法 (社会科)	2	初等教科教育法 (生活科)	2
初等教科教育法 (音楽科)	2	初等教科教育法 (図画工作科)	2
初等教科教育法 (体育科)	2	初等教科教育法 (家庭科)	2
生徒・進路指導論 (初等)	2	教育相談 (初等)	2
特別活動論 (初等)	2	道徳教育指導法 (初等)	2
学校心理学	2	算数概説 A	2
算数概説 B	2	理科概説 A	2
理科概説 B	2	体育概説 (理論)	2
体育概説 (運動)	2	音楽概説 (理論)	2
音楽概説 (器楽 A)	2	音楽概説 (器楽 B)	2
音楽概説 (声楽)	2	初等国語概説	2
社会科概説	2	生活科概説	2
図画工作概説 (美術)	2	図画工作概説 (造形)	2
図画工作概説 (理論)	2	家庭科概説 (被服)	2
家庭科概説 (食物)	2	英語音声学 (演習)	2
書道	4		

2. 教育学科
学科科目配置表

(7) 履修取消制度対象外の科目について

教育学科必修科目は、履修取消制度の対象外とします。

種別A } 全コース Aから6単位、Bから6単位 計12単位選択必修

種別B } 12単位を超えて修得した科目はその群の単位となります。

人間形成探究コース 第I群の中から16単位選択必修

臨床教育・生涯発達コース 第II群および①④の中から16単位選択必修

教育情報・メディアコース 第III群の中から16単位選択必修

幼児教育学コース 第IV群および⑤の中から38単位選択必修

児童教育学コース 第V群の中から46単位選択必修

上記の選択必修科目として修得したA、Bの科目は、これらの単位に含めることはできません

(太字は必修科目、△は隔年開講)

科目群	種別	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
第0群		教育学概説	2	1	
		教育心理学概説	2	1	
		教育制度概説	2	1	
		教育思想概説	2	1	
		教育学研究法	2	2	
		基礎演習 I	2	1	
		基礎演習 II	2	1	
		応用演習 I	2	2	
		応用演習 II	2	2	
		専門演習 I	2	3	
		専門演習 II	2	3	
		卒業研究 I	4	4	
		卒業研究 II	4	4	
第I群	A	人間形成学総論	2	1・2	
	1	日本教育史 I	2	1・2	
	1	日本教育史 II	2	1・2	
	1	西洋教育史 I	2	3・4	
	1	西洋教育史 II	2	3・4	
	1	西洋教育史 III	2	3・4	
	1	教育史特殊講義	2	3・4	
	B	宗教教育学	2	2	
	1	発達と文化 A	2	3・4	
	1	発達と文化 B	2	3・4	
	1	教育哲学 A	2	3・4	
	1	教育哲学 B	2	3・4	
	1	教育学特論 A	2	3・4	
	1	教育学特論 B	2	3・4	
	A	教育社会学総論	2	1・2	
	1	比較発達社会学	2	1・2	
	1	生涯発達心理学 I	2	1・2	
	1	生涯発達心理学 II	2	1・2	

第 I 群	B	キャリア教育 A	2	2	
	①	キャリア教育 B	2	3・4	
	1	家庭教育 A	2	2	
	1	家庭教育 B	2	2	
	1	比較教育学	2	3・4	
	1	異文化理解教育	2	3・4	
	1	老年学	2	3・4	
	1	教育学特論 C	2	3・4	
	1	教育学特論 D	2	3・4	
第 II 群	A	臨床教育学総論	2	1・2	
	B	社会福祉概論	2	2	
	2	臨床心理学概論 I	2	2	
	2	臨床心理学概論 II	2	2	
	2	小児精神神経学	2	3・4	
	2	相談心理学 I	2	3・4	
	2	相談心理学 II	2	3・4	
	2	特別支援教育	2	3・4	
	2	障害児・者の心理 I	2	2	
	2	障害児・者の心理 II	2	3・4	
	2	障害児・者の施設実習	2	2	
	2	障害児・者の教育	2	3・4	
	2	障害児・者の福祉	2	3・4	
	2	障害児・者の医学	2	3・4	
	2	教育学特論 E	2	3・4	
	2	教育学特論 F	2	3・4	
	B	生涯学習概論 I	2	2	
	2	生涯学習概論 II	2	2	
	B	高等教育論 A	2	2	
	2	高等教育論 B	2	3・4	
	2	社会教育計画 I	2	3・4	
	2	社会教育計画 II	2	3・4	
	2	社会教育課題研究 I	2	3・4	社会教育主事資格取得希望申請者のみ履修可
	2	社会教育課題研究 II	2	3・4	社会教育主事資格取得希望申請者のみ履修可
	2	高齢化社会と教育	2	3・4	
	2	青年期と教育	2	3・4	
	2	ジェンダーと教育	2	3・4	
	2	青年文化論	2	3・4	
	2	△ボランティア教育論	2	3・4	
	2	△地域ネットワーク論	2	3・4	
	2	△スポーツ・レクリエーション論	2	3・4	
	2	教育学特論 G	2	3・4	

第Ⅱ群	2	教育学特論 H	2	3・4	
	A	教育情報学総論	2	1・2	
	A	メディア・コミュニケーション総論	2	1・2	
第Ⅲ群	B	認知科学概論	2	2	
	3	学校経営と学校図書館	2	2	
	3	視聴覚教育メディア論	2	3・4	
	3	インターフェース論	2	3・4	
	3	知的表現論	2	3・4	
	3	教材開発論	2	3・4	
	3	学習指導と学校図書館	2	3・4	
	3	学校図書館メディア	2	3・4	
	3	情報メディア利用論	2	3・4	
	3	読書教育論	2	3・4	
	3	学習心理学 I	2	3・4	
	3	学習心理学 II	2	3・4	
	3	社会心理学 I	2	3・4	
	3	社会心理学 II	2	3・4	
	3	教育学特論 I	2	3・4	
	3	教育学特論 J	2	3・4	
	B	図書館情報学概論	2	2	
	3	図書館システムサービス論	2	2	
	3	図書館情報文化論	2	2	
	3	図書館システム経営論	2	3・4	
	3	情報メディア論 A	2	2	
	3	情報メディア論 B	2	3・4	
	3	情報メディア論 C	2	3・4	
	3	児童サービス論	2	3・4	
	3	メディア組織法 I	2	3・4	
	3	メディア組織法 II	2	3・4	司書資格取得希望申請者のみ履修可
	3	メディア組織法 III	2	3・4	司書資格取得希望申請者のみ履修可
	3	情報サービス論 I	2	3・4	
	3	情報サービス論 II	2	3・4	
	3	情報サービス論 III	2	3・4	
	3	情報技術論	2	2・3・4	
	3	図書館情報学実習 A	2	4	司書資格取得希望申請者のみ履修可
	3	図書館情報学実習 B	2	4	司書資格取得希望申請者のみ履修可
	3	教育学特論 K	2	3・4	
	3	教育学特論 L	2	3・4	

第 IV 群	A	幼児教育原理 A	2	1・2	
	4	幼児教育原理 B	2	1・2	
	④	児童福祉論	2	1・2	
	B	臨床保育学 A	2	2	
	4	臨床保育学 B	2	2	
	④	小児保健論	2	3・4	
	4	教育学特論 M	2	3・4	
	4	教育学特論 N	2	3・4	
	4	保育方法研究 A	2	2	
	4	保育方法研究 B	2	2	
	4	保育内容総論 A	2	3・4	
	4	保育内容総論 B	2	3・4	
	4	保育内容教育法 (健康)	2	3・4	
	4	保育内容教育法 (人間関係)	2	3・4	
	4	保育内容教育法 (環境)	2	3・4	
	4	保育内容教育法 (ことば)	2	3・4	
	4	保育内容教育法 (表現 A)	2	3・4	
	4	保育内容教育法 (表現 B)	2	3・4	
	④	小児栄養学	2	3・4	
	4	教育学特論 O	2	3・4	
4	教育学特論 P	2	3・4		
第 V 群	A	学校教育学総論	2	1・2	
	A	初等教育原理 A	2	1・2	
	5	初等教育原理 B	2	1・2	
	B	教職論	2	2	
	B	教育方法論 (初等)	2	2	
	B	教育課程論 (初等)	2	2	
	5	初等教科教育法 (国語科)	2	3・4	
	5	初等教科教育法 (算数科)	2	3・4	
	5	初等教科教育法 (理科)	2	3・4	
	5	初等教科教育法 (社会科)	2	3・4	
	5	初等教科教育法 (生活科)	2	3・4	
	5	初等教科教育法 (音楽科)	2	3・4	
	5	初等教科教育法 (図画工作科)	2	3・4	
	5	初等教科教育法 (体育科)	2	3・4	
	5	初等教科教育法 (家庭科)	2	3・4	
	5	生徒・進路指導論 (初等)	2	3・4	
	5	教育相談 (初等)	2	3・4	
	5	特別活動論 (初等)	2	3・4	
	5	道徳教育指導法 (初等)	2	3・4	
	5	学校心理学	2	2・3・4	
5	教育学特論 Q	2	3・4		

第 V 群	5	教育学特論 R	2	3・4	
	⑤	算数概説 A	2	1・2	
	⑤	算数概説 B	2	1・2	
	⑤	理科概説 A	2	1・2	
	⑤	理科概説 B	2	1・2	
	⑤	体育概説 (理論)	2	1・2	
	⑤	体育概説 (運動)	2	3・4	
	⑤	音楽概説 (理論)	2	1・2	
	⑤	音楽概説 (器楽 A)	2	2	
	⑤	音楽概説 (器楽 B)	2	3・4	
	⑤	音楽概説 (声楽)	2	3・4	
	⑤	初等国語概説	2	2	
	5	社会科概説	2	3・4	
	⑤	生活科概説	2	3・4	
	⑤	図画工作概説 (美術)	2	2	
	⑤	図画工作概説 (造形)	2	2	
	⑤	図画工作概説 (理論)	2	3・4	
	5	家庭科概説 (被服)	2	3・4	
	5	家庭科概説 (食物)	2	3・4	
	5	初等英語概説 A	2	3・4	
	5	初等英語概説 B	2	3・4	
	5	教育学特論 S	2	3・4	
	5	教育学特論 T	2	3・4	
	第 VI 群		英語概説 A	2	3・4
		英語概説 B	2	3・4	
		Advanced Academic Writing A	1	3・4	
		Advanced Academic Writing B	1	3・4	
		英文学 A	2	3・4	
		英文学 B	2	3・4	
		英国文学史 A	2	3・4	
		英国文学史 B	2	3・4	
		英語音声学 (講義)	2	3・4	
		英語音声学 (演習)	2	3・4	
		△グローバル文化論 A	2	2	
		△グローバル文化論 B	2	2	
		△グローバル文化論 C	2	2	
		△グローバル文化論 D	2	2	
		初等英語特論 A	2	3・4	
		初等英語特論 B	2	3・4	
	中等国語概説	2	2・3・4		
	国文学 A	2	1・2		
	国文学 B	2	1・2		

第VI群の科目は、教育人間科学部他学部他学科および他学部の学生の場合、教員免許または各種資格取得希望者に限り、当該免許等に必要科目のみ履修できます。

第VI群	国文学史 A	2	3・4	
	国文学史 B	2	3・4	
	△国文学特論 A	2	2・3・4	
	△国文学特論 B	2	2・3・4	
	△国文学特論 C	2	2・3・4	
	△国文学特論 D	2	2・3・4	
	△国文学特論 E	2	2・3・4	
	△国文学特論 F	2	2・3・4	
	漢文学 A	2	3・4	
	漢文学 B	2	3・4	
	書道 A	2	3・4	
	書道 B	2	3・4	
	日本史 A	2	3・4	
	日本史 B	2	3・4	
	外国史（東洋史）	2	3・4	
	外国史（西洋史）	2	3・4	
	人文地理学 A	2	3・4	
	人文地理学 B	2	3・4	
	自然地理学 A	2	3・4	
	自然地理学 B	2	3・4	
	△地理情報分析法 A	2	3・4	
	△地理情報分析法 B	2	3・4	
	△気象学 A	2	3・4	
	△気象学 B	2	3・4	
	地誌学概論 A	2	3・4	
	地誌学概論 B	2	3・4	
	法律学概説 A	2	3・4	
	法律学概説 B	2	3・4	
	政治学概説 A	2	3・4	
	政治学概説 B	2	3・4	
	社会学概説	2	3・4	
	経済学総論 A	2	3・4	
	経済学総論 B	2	3・4	
哲学史 A	2	3・4		
哲学史 B	2	3・4		
宗教学 A	2	3・4		
宗教学 B	2	3・4		
教育学概説Ⅱ	2	3・4		
第VII群	キリスト教学校論	2	3・4	
	聖書の世界（旧約）	2	3・4	
	聖書の世界（新約）	2	3・4	
	キリスト教の教理	2	3・4	

第 VII 群	キリスト教と法思想	2	3・4	
	宗教と社会	2	3・4	
	礼拝学	2	3・4	
	キリスト教メンタルヘルス	2	3・4	

履修年次について

- *履修年次欄に記載されている年次より、下級の年次で履修することはできません。
- *履修年次欄に記載されている数字は、その学年に履修することが望ましいということを表しています。

しかし、万一単位が修得できなかった場合や、履修できなかった場合は、上級年次でも履修することができます。

ただし、免許取得のために履修順序が指定されている科目については、免許取得を希望する場合には、必ずその学年で履修してください。

※科目担当者や当該年度の休講等については、学生ポータル（時間割・講義内容検索）で、必ず確認してください。

【5】 自由選択科目履修方法

1. 自由選択科目の必要単位

- (イ) 教育学科学科科目（必修および選択必修として修得した単位は除きます）
- (ロ) 青山スタンダード科目（必修、選択必修および選択として修得した単位は除きます）
- (ハ) 心理学科および他学部開講の科目（注）
- （注） 各年次の最高履修制限単位内で履修できますが、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されるのは16単位までです。
- ただし、幼児教育学コースは12単位、児童教育学コースは4単位までとなります。履修する場合には、心理学科または他学部の履修制限に従ってください。
- また、本学科に同一名称科目、同一内容科目が開講されている場合は、本学科開講科目を履修しなければなりません。本学科学科科目と心理学科学科科目との対応は次のとおりです。

本学科学科科目	心理学科学科科目
臨床心理学概論Ⅰ	臨床心理学概論Ⅰ
臨床心理学概論Ⅱ	臨床心理学概論Ⅱ
相談心理学Ⅰ	相談心理学A
相談心理学Ⅱ	相談心理学B
障害児・者の教育	障害者・障害児の教育と医学
障害児・者の福祉	福祉心理学
認知科学概論	認知科学概論
学習心理学Ⅰ	学習と教育の心理学
社会心理学Ⅰ	社会心理学概論
社会心理学Ⅱ	社会心理学A（社会・集団・家族心理学A）
学校心理学	教育・学校心理学

2. 学校司書養成プログラムについて

学校司書とは、「学校図書館の運営の改善及び向上を図り、児童又は生徒教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事する職員」（学校図書館法）です。本学教育学科においては、文部科学省通知「『学校司書のモデルカリキュラム』について」（2016年11月29日付）に基づいて、2017年度より「学校司書養成プログラム」を開設しました。プログラムの履修を希望する者は、以下の要領で必要科目を履修してください。なお、司書教諭は、学校司書とは異なる資格です（『教職課程履修の手引き』を参照）。

- (イ) 年度初頭に実施される「学校司書養成プログラムオリエンテーション」（主に二年次生対象）に出席してください。オリエンテーションおよび教務課にて配布されるプログラムの履修届に記入のうえ、所定の期限までに提出してください。履修届は毎年度の提出が必要です。
- (ロ) プログラム修了のために単位修得が必要な科目を各自で履修登録のうえ、受講してください。なお、次の点に留意してください。
 - ・司書資格取得の申請をおこなうこと。ただし、司書資格取得は本プログラムの修了要件とはしません。
 - ・「情報サービス論Ⅱ」「情報サービス論Ⅲ」「メディア組織法Ⅱ」「メディア組織法Ⅲ」を履修する前年度までに、「図書館情報学概論」を履修し、単位を修得すること。

《プログラム修了のために単位修得が必要な科目》

	「通知」における科目*	本学における開講科目	科目の種類	配置年次	単位数
・ 学校図書館サービスに関する科目	学校図書館概論	学校経営と学校図書館	教育学科学科科目	2～4	2
	図書館情報技術論	情報技術論	教育学科学科科目	2～4	2
	図書館情報資源概論	情報メディア論A	教育学科学科科目	2～4	2
	情報資源組織論	メディア組織法Ⅰ	教育学科学科科目	3・4	2
	情報資源組織演習	①メディア組織法Ⅱ	教育学科学科科目	3・4	2
		①メディア組織法Ⅲ	教育学科学科科目	3・4	2
	学校図書館サービス論	教育学特論K	教育学科学科科目	3・4	2
	学校図書館情報サービス論	②情報サービス論Ⅰ	教育学科学科科目	3・4	2
		②情報サービス論Ⅱ	教育学科学科科目	3・4	2
		②情報サービス論Ⅲ	教育学科学科科目	3・4	2
育 児童生徒に関する科目	学校教育概論	③学校教育学総論	教育学科学科科目	1～4	2
		④教育心理学概説	教育学科学科科目	1～4	2
		④教育思想概説	教育学科学科科目	1～4	2
		④※教育課程論（初等）	教育学科学科科目	2～4	2
		④※教育課程編成法（中等）	教職課程科目	2～4	2
	学習指導と学校図書館	学習指導と学校図書館	教育学科学科科目	3・4	2
	読書と豊かな人間性	読書教育論	教育学科学科科目	3・4	2
必要科目（単位）数	13科目（26単位）または15科目（30単位）				

- ①は2科目とも単位修得が必要。②は3科目とも単位修得が必要。
- ③の1科目または④の3科目（※はいずれか1科目）の単位修得が必要。
- * 「通知」における科目とは文部科学省通知「『学校司書のモデルカリキュラム』について」（2016年11月29日付）において示された科目を指します。

- (ハ) プログラムの修了証明（証明書の発行など）については学生ポータル等でお知らせします。
- (ニ) 2019年度以降、全学部対象とした学校司書の養成プログラムに統合されるなど、今後変更が行われる場合があります。

【3】 心理学科履修について

1. 卒業要件

(1) 卒業に必要な単位数について

卒業資格を得るためには、下表の各科目種別について定める単位数を修得しなければなりません。ここに示す単位数は種別ごとの最低の単位数であり、これが1単位でも不足すると卒業は認められません。

卒業に必要な最低単位数

	青山スタンダード科目	外国語科目	学科科目			自由選択科目	卒業要件単位数
			各コース共通	コース別			
				必修	必修		
一般心理コース	24	10	22	0	36	36	128
臨床心理コース	24	10	22	41	16	15	128

青山スタンダード科目の履修については青山スタンダード科目履修方法および配置表を参照してください。

(2) 学位について

教育人間科学部心理学科に4年以上（ただし、8年を限度とします）在学し、卒業に必要な要件を満たした者には、学位を与え、学士（心理学）の学位を授与します。

(3) コース決定について

心理学科は上記表に記載のとおり、2つのコースに分かれています。コースの概要は以下のとおりです。

1 一般心理コース

多様な進路に向けて自由度の高い授業選択ができるコースです。心理学の基本的な研究法を学ぶとともに、認知心理学・発達心理学・社会心理学・臨床心理学および哲学を中心に、人間の心理についてそれぞれの視点から理解を深めます。

2 臨床心理コース

将来、公認心理師や臨床心理士を目指す人のためのコースです。公認心理師の受験資格のうち、学部での履修が求められる科目の大半がコース必修またはコース選択必修となっており、これらの科目履修を通して心理学の専門家として求められる各領域の基本知識と技能を身につけます。

◎コースの決定

コースの決定については、2年次4月頃までにコース登録オリエンテーションを行いますので、必ず出席してください。開催日時やコース登録方法等の詳細は「学生ポータル」でお知らせします。

ただし、1年次から、コース選択のことも考えて、科目を履修してください。特に、臨床心理コースに進むことを考えている人は、2年次で「公認心理師の職責」および「心理実習事前指導」を履修登録することが臨床心理コース登録の条件になっていますので、注意してください。3年次からは、決定したコースごとに必要な科目を履修し、卒業要件単位を満たすことで、卒業することができます。

いったん決定したコースは原則として変更することができませんので、十分検討のうえ、決定してください。

2. 最高履修制限単位

最高履修制限単位は次のとおりです。各年次ともこの単位を超えて履修することはできません。

なお、各年次においては、1科目以上の履修をしなくてはなりません。

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	合計
44	48	48	44	184

注) 2010年度より、社会教育主事の資格を取得希望する学生は教育原理A、教育原理Bを上記制限単位外で履修できます。

3. 進級条件

- (1) 1年次終了時に8単位以上修得していなければ2年次に進級できません。
- (2) 2年次終了時に50単位以上修得していなければ3年次に進級できません。

4. 修得単位僅少者について

入学後の2年間（休学期間を除きます）で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込のない者として除籍されることがありますので、該当しないよう、とくに注意してください。

5. 外国人留学生の外国語科目の履修について

外国語科目（外国語Ⅰ、外国語Ⅱ）は、入学手続き時に申請した科目を必ず履修してください。なお、履修方法は次のとおりです。

(1) 外国語 I の必要単位 (10単位)

(太字は必修科目)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	履 修 順 序	備 考
日 本 語 初 級 A - 1	各	1		
日 本 語 初 級 A - 2			日本語初級 A-1 修得者のみ履修可	
日 本 語 初 級 B - 1				
日 本 語 初 級 B - 2			日本語初級 B-1 修得者のみ履修可	
日 本 語 初 級 C - 1				
日 本 語 初 級 C - 2			日本語初級 C-1 修得者のみ履修可	
日 本 語 中 級 A - 1	1	2		中級 A または 中級 B のどち らかを選択必 修
日 本 語 中 級 A - 2			日本語中級 A-1 修得者のみ履修可	
日 本 語 中 級 B - 1				
日 本 語 中 級 B - 2			日本語中級 B-1 修得者のみ履修可	
日 本 語 上 級 - 1	1	3		
日 本 語 上 級 - 2			日本語上級-1 修得者のみ履修可	

- 注 1) 必修10単位を超えて修得した場合は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。
 注 2) 各授業科目間の履修順序はつきません。ただし、前期開講科目と後期開講科目の間にそれぞれ履修順序があり、前期開講科目の単位が修得できない時、後期開講科目の履修登録は自動的に削除されます。なお、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。
 注 3) 原則として外国語 I は日本語ですが、特に英語を外国語 I として履修するよう指定を受けた者は一般学生と同じ科目を10単位修得してください。

(2) 言葉の技能 (外国語 II) の必要単位 (4 単位)

母国語以外の下記科目中より、初級 4 単位を修得してください。

フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語

- 注 1) 入学手続き時に申請した科目の II、III および会話の単位を修得した場合は、テーマ別科目として卒業に必要な単位に算入されます。
 注 2) 各授業科目間の履修順序はつきません。ただし、1 年次配置前期開講科目と後期開講科目の間にそれぞれ履修順序があり、前期開講科目の単位が修得できない時、後期開講科目の履修登録は自動的に削除されます。なお、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。
 注 3) 英語を外国語 I として履修するよう指定を受けた者は、日本語を外国語 II とすることができます。この場合、英語は外国語 II とはなりません。
 注 4) 入学手続き時に申請した科目以外の I、II、III および会話の単位を修得した場合は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。この場合、各授業科目間の履修順序はつきません。ただし各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。
 注 5) 本学入学以前に、高等学校あるいは海外等で既に学習したことのある者が、その学力を I の科目の修了者に準ずると認定された場合、II の科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

【4】 心理学科学科科目履修方法および配置表

1. 学科科目履修方法

(1) 学科科目の必要単位

【各コース共通】

必修〔22単位〕

心理学概論〔2〕 心理学研究法〔2〕 心理学実験〔2〕 心理学統計法Ⅰ〔2〕
心理学統計法Ⅱ〔2〕 心理学基礎演習〔2〕 心理統計基礎〔2〕 心をめぐる諸問題〔2〕
心理学応用演習〔2〕 特別研究演習Ⅰ〔2〕 特別研究演習Ⅱ〔2〕

【コース別】

一般心理コース〔選択必修36単位、自由選択36単位〕

・選択必修〔36単位〕

下記(イ)(ロ)をあわせて36単位を選択必修とします。

- (イ) 1～4年次の間に、区分Ⅰ～Ⅶの科目のうち、必修科目と心理実習を除いた科目から28単位を選択必修とします。
- (ロ) 4年次において、以下のいずれかの要領で8単位を選択必修とします。
- ・卒業論文Ⅰ（2単位）・卒業論文Ⅱ（4単位）を履修し単位を修得した場合は、区分Ⅰ～Ⅶの科目のうち、必修科目と心理実習を除いた科目から2単位を選択必修とします。
 - ・卒業論文Ⅱ（4単位）を履修しない場合は、区分Ⅰ～Ⅶの科目のうち、必修科目と心理実習を除いた科目と、区分Ⅷの卒業論文Ⅰから8単位を選択必修とします。
- (注) 選択必修の必要単位を超えて修得した学科科目の単位は、自由選択科目の単位に参入されます。

・自由選択〔36単位〕

臨床心理コース〔コース別必修41単位、選択必修16単位、自由選択15単位〕

・コース別必修〔41単位〕

認知心理学A（知覚・認知心理学）〔2〕 認知心理学B（学習・言語心理学）〔2〕
人格・感情心理学〔2〕 神経・生理心理学〔2〕
社会心理学A（社会・集団・家族心理学A）〔2〕
家族心理学（社会・集団・家族心理学B）〔2〕 発達心理学Ⅰ〔2〕 発達心理学Ⅱ〔2〕
障害者・障害児心理学〔2〕 公認心理師の職責〔2〕 臨床心理学概論Ⅰ〔2〕
臨床心理学概論Ⅱ〔2〕 健康・医療心理学〔2〕 福祉心理学〔2〕 教育・学校心理学〔2〕
司法・犯罪心理学〔2〕 産業・組織心理学〔2〕 人体の構造と機能および疾病〔2〕
精神疾患とその治療〔2〕 関係行政論〔2〕 心理実習事前指導〔1〕

・選択必修〔16単位〕

下記(イ)～(ニ)をあわせて16単位を選択必修とします。

- (イ) 下記科目の中から2単位
心理的アセスメントA・B〔各2〕
- (ロ) 下記科目の中から2単位
心理学的支援法A・B〔各2〕
- (ハ) 下記科目の中から2単位
心理演習A～I〔各2〕
- (ニ) 下記(a)、(b)を合わせて10単位（心理実習を含む）
(a) 1～4年次の間に、区分Ⅰ～Ⅶの科目のうち、必修科目を除いた科目から2単位を選択必修とします。

(b) 4年次において、以下のいずれかの要領で8単位を選択必修とします。

- ・卒業論文Ⅰ（2単位）・卒業論文Ⅱ（4単位）を履修し単位を修得した場合は、区分Ⅰ～Ⅶの科目のうち、必修科目を除いた科目から2単位を選択必修とします。
- ・卒業論文Ⅱ（4単位）を履修しない場合は、区分Ⅰ～Ⅶの科目のうち、必修科目を除いた科目と、区分Ⅷの卒業論文Ⅰから8単位を選択必修とします。

(注1) 選択必修(イ)～(ハ)で指定されている科目から、各4単位以上取得した場合は、2単位が選択必修(イ)～(ハ)、その他は選択必修(ニ)または自由選択科目の単位に参入されます。

(注2) 選択必修(ニ)の必要単位を超えて修得した学科科目の単位は、自由選択科目の単位に参入されます。

(注3) 公認心理師の受験資格を得るためには、卒業までに、選択必修(ニ)または自由選択科目として心理実習（2単位）を修得する必要があります。

・自由選択〔15単位〕

(2) 特別研究演習Ⅰ・Ⅱについて

特別研究演習Ⅰ・Ⅱの履修登録にあたっては、前年度秋頃に行われるオリエンテーションに参加し、指定された手順に従ってゼミ志望理由書を提出する必要があります。ゼミ志望理由書に基づいて学科内で検討を行った後、各学生の指導教員を公表しますので、それをもって履修登録を行うものとします。オリエンテーション日程およびゼミ決定プロセスの詳細は「学生ポータル」でお知らせします。

なお、特別研究演習Ⅰ・Ⅱについては心理学科以外の教員を指導教員とすることはできません。

(3) 卒業論文Ⅰ・Ⅱについて

(イ) 卒業論文Ⅰ・Ⅱは、前年度までに特別研究演習Ⅰ・Ⅱの単位を修得し、かつ年度初頭において履修登録科目を含めて、その年度に卒業の見込みのたつ場合でなければ履修できません。

(ロ) 卒業論文Ⅰ・Ⅱの履修にあたっては、前年度に、指定された手順に従ってゼミ志望理由書を提出する必要があります。ゼミ志望理由書に基づいて学科内で検討を行った後、各学生の指導教員を公表しますので、それをもって履修登録を行って下さい。ただし、特別研究演習Ⅰ・Ⅱとは異なり、学生本人による登録が必要ですので、注意して下さい。なお、卒業論文Ⅰ・Ⅱについても心理学科以外の教員を指導教員とすることはできません。

(ハ) 卒業論文Ⅱの単位は、①卒業論文を提出し、②卒業論文発表会における発表と質疑応答を行い、③主査・副査による審査に合格した場合に対して授与されます。

卒業論文 提出期限 学生ポータルにて発表しますのでその指示に従ってください。
提出先 学務部教務課

締切に遅れたものについてはいかなる理由があっても一切受け付けません。

(ニ) 卒業論文は、パソコンを用いて所定の書式で作成し、印刷された論文本体にレポート用の表紙をつけて学務部教務課へ提出してください。また論文本体とは別に、論文ファイルおよびデータファイルを納めた、CD-R等の記録媒体を提出期限内に心理学科合同研究室へ提出しなければなりません。

合格した卒業論文は、製本して心理学科合同研究室の書架に配架します。

(ホ) 提出後の論文の訂正はできません。

(4) 同一名称科目の履修について

既に合格した科目を再度履修すること、および、同一年度に同一名称科目を履修することはできません。ただし、心理学科学科科目のうち、下記科目に限り、同一名称科目であっても担当者が異なる場合、あるいは講義内容が異なる場合は、何回でも履修することができます。

す。

心理学特別講義 A	心理学特別講義 B	心理学特別講義 C
心理学特別講義 D	心理学特別講義 E	心理学特別講義 F
心理学特別講義 G	認知心理学特講 A	認知心理学特講 B
発達心理学特講 A	発達心理学特講 B	社会心理学特講 A
社会心理学特講 B	臨床心理学特講 A	臨床心理学特講 B
臨床発達特講 A	臨床発達特講 B	臨床発達特講 C

(5) 履修順序について

(イ) 以下の科目は、表のと通りの順でのみ履修できます。

1	2	3	4
	1 が合格した場合のみ履修できます	2 が合格した場合のみ履修できます	3 が合格した場合のみ履修できます
特別研究演習 I	特別研究演習 II	卒業論文 I	卒業論文 II
公認心理師の職責 心理実習事前指導	心理実習		

(ロ) 以下の必修科目は、できるだけ表のと通りの年次で履修してください。

とくに1・2年次に記載されている6科目は、特別研究演習 I・II の履修に必要な知識・技能を学ぶ科目なので、原則として1・2年次の間に履修しておいてください。

1 年次	2 年次	3 年次
心理学概論 心理統計基礎	心理学統計法 I 心理学統計法 II 心理学実験 心理学研究法	特別研究演習 I 特別研究演習 II

(ハ) 以下の科目は、表のと通りの順で履修することを勧めます。

1	2	
	1 を先に履修することが望ましい	2 を先に履修することが望ましい
認知心理学概論	認知心理学 A (知覚・認知心理学) 認知心理学 B (学習・言語心理学)	認知心理学特講 A 認知心理学特講 B
社会心理学概論	社会心理学 A (社会・集団・家族心理学 A) 社会心理学 B (応用社会心理学)	社会心理学特講 A 社会心理学特講 B
発達心理学概論	発達心理学 I 発達心理学 II	発達心理学特講 A 発達心理学特講 B
臨床心理学概論 I 臨床心理学概論 II	臨床心理学特講 A 臨床心理学特講 B	

その他、ローマ数字 I・II がついている科目 (例：発達心理学 I・II) は、内容的な側面から番号順に履修することを勧めている科目です。アルファベットがついている科目 (例：認知心理学特講 A・B) については、履修順序は問いません。

(6) 他学部及び他学科学生の心理学科学科科目の履修について

心理学科学科科目のうち、下記授業科目は他学部、他学科の学生の履修を認めません。

学科科目	単位	学科科目	単位
心理学概論	2	芸術療法演習	2
心理学研究法	2	心理演習 A	2
心理学実験	2	心理演習 B	2
心理学統計法 I ※	2	心理演習 C	2
心理学統計法 II ※	2	心理演習 D	2
心理学基礎演習	2	心理演習 E	2
心理統計基礎	2	心理演習 F	2
心をめぐる諸問題 ※	2	心理演習 G	2
質的研究法演習	2	心理演習 H	2
心理学実験プログラミング ※	2	心理演習 I	2
学習と教育の心理学	2	心理実習事前指導	1
認知科学概論	2	心理実習	2
公認心理師の職責	2	心理学応用演習	2
臨床心理学概論 I ※	2	哲学文献講読演習 I	2
臨床心理学概論 II ※	2	哲学文献講読演習 II	2
心理的アセスメント A※	2	特別研究演習 I	2
心理的アセスメント B※	2	特別研究演習 II	2
心理学的支援法 A※	2	卒業論文 I	2
心理学的支援法 B※	2	卒業論文 II	4

※ 教育人間科学部教育学科の学生のみ履修を認めます。

(7) 履修取消制度対象外の科目について

心理学科必修科目は、履修取消制度の対象外とします。

2. 学科科目配置表

履修年次について

*履修年次欄に記載されている年次より、下級の年次で履修することはできません。

*履修年次欄に記載されている数字は、その学年に履修することが望ましいということを表しています。

しかし、万一単位が修得できなかった場合や、履修できなかった場合は、上級年次でも履修することができます。

(太字は学科共通必修科目)

区分	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
I 群	心 理 学 概 論	2	1	
	心 理 学 研 究 法	2	2	
	心 理 学 実 験	2	2	
	心 理 学 統 計 法 I	2	2	
	心 理 学 統 計 法 II	2	2	
	心 理 学 基 礎 演 習	2	1	
	心 理 統 計 基 礎	2	1	
	心 を め ぐ る 諸 問 題	2	2	
	心 理 学 統 計 法 III	2	3	
	質 的 研 究 法 演 習	2	2・3	
	心 理 学 実 験 プ ロ グ ラ ミ ン グ	2	2・3	
	心 の 哲 学 I	2	3・4	
	心 の 哲 学 II	2	3・4	
	哲 学 的 認 識 論 I	2	2・3・4	
哲 学 的 認 識 論 II	2	2・3・4		
II 群	認 知 心 理 学 A (知 覚 ・ 認 知 心 理 学)	2	2・3	臨床心理コース必修
	認 知 心 理 学 B (学 習 ・ 言 語 心 理 学)	2	2・3	
	人 格 ・ 感 情 心 理 学	2	2・3	
	神 経 ・ 生 理 心 理 学	2	2・3	
	社 会 心 理 学 A (社 会 ・ 集 団 ・ 家 族 心 理 学 A)	2	2・3	
	家 族 心 理 学 (社 会 ・ 集 団 ・ 家 族 心 理 学 B)	2	2・3	
	発 達 心 理 学 I	2	2・3	
	発 達 心 理 学 II	2	2・3	
障 害 者 ・ 障 害 児 心 理 学	2	2・3		
III 群	認 知 心 理 学 概 論	2	1・2	
	認 知 心 理 学 特 講 A	2	3・4	
	認 知 心 理 学 特 講 B	2	3・4	
	発 達 心 理 学 概 論	2	1・2	
	発 達 心 理 学 特 講 A	2	3・4	
	発 達 心 理 学 特 講 B	2	3・4	
	社 会 心 理 学 概 論	2	1・2	
	社 会 心 理 学 B (応 用 社 会 心 理 学)	2	2・3	
	社 会 心 理 学 特 講 A	2	3・4	
	社 会 心 理 学 特 講 B	2	3・4	

III 群	学習と教育の心理学	2	2・3	
	認知科学概論	2	2	
	障害者・障害児の教育と医学	2	3・4	
	コミュニティ心理学	2	3・4	
	心理学特別講義 A	2	3・4	
	心理学特別講義 B	2	3・4	
	心理学特別講義 C	2	3・4	
	心理学特別講義 D	2	3・4	
	心理学特別講義 E	2	3・4	
	心理学特別講義 F	2	3・4	
心理学特別講義 G	2	3・4		
IV 群	公認心理師の職責	2	2	
	臨床心理学概論 I	2	1・2	臨床心理コース必修
	臨床心理学概論 II	2	1・2	
	心理的アセスメント A	2	2・3	
	心理的アセスメント B	2	2・3	
	心理学的支援法 A	2	2・3	
	心理学的支援法 B	2	2・3	
	健康・医療心理学	2	2・3	臨床心理コース必修
	福祉心理学	2	2・3	
	教育・学校心理学	2	2・3	
	司法・犯罪心理学	2	3・4	
	産業・組織心理学	2	3・4	
	人体の構造と機能および疾病	2	2・3	
	精神疾患とその治療	2	2・3	
関係行政論	2	3・4		
V 群	グループ・アプローチ	2	2・3	
	臨床地域援助	2	2・3	
	臨床心理学特講 A	2	3・4	
	臨床心理学特講 B	2	3・4	
	芸術療法	2	3・4	
	芸術療法演習	2	3・4	
	心理面接法 A	2	3・4	
	心理面接法 B	2	3・4	
	相談心理学 A	2	3・4	
	相談心理学 B	2	3・4	
	臨床発達特講 A	2	3・4	
	臨床発達特講 B	2	3・4	
	臨床発達特講 C	2	3・4	
精神保健福祉	2	3・4		
VI 群	心理演習 A	2	3・4	
	心理演習 B	2	3・4	

VI 群	心 理 演 習 C	2	3・4	
	心 理 演 習 D	2	3・4	
	心 理 演 習 E	2	3・4	
	心 理 演 習 F	2	3・4	
	心 理 演 習 G	2	3・4	
	心 理 演 習 H	2	3・4	
	心 理 演 習 I	2	3・4	
	心 理 実 習 事 前 指 導	1	2	臨床心理コース必修
	心 理 実 習	2	3・4	臨床心理コースのみ履修可
VII 群	心 理 学 応 用 演 習	2	2・3	
	心 理 学 原 書 講 読 A	2	3・4	
	心 理 学 原 書 講 読 B	2	3・4	
	心 理 学 原 書 講 読 C	2	3・4	
	哲 学 文 献 講 読 演 習 I	2	2・3・4	
	哲 学 文 献 講 読 演 習 II	2	2・3・4	
VIII 群	特 別 研 究 演 習 I	2	3	
	特 別 研 究 演 習 II	2	3	
	卒 業 論 文 I	2	4	
	卒 業 論 文 II	4	4	

※ 科目担当者等は、学生ポータル（時間割・講義内容検索）で確認してください。

【5】 自由選択科目履修方法

1. 自由選択科目の必要単位

- (イ) 心理学科学科科目（必修および選択必修として修得した必要単位は除きます。）
 - (ロ) 青山スタンダード科目（必修、選択必修および選択として修得した必要単位は除きます。）
 - (ハ) 教育学科ならびに他学部開講の科目（注）
- （注）（イ）（ロ）同様、各年次の最高履修制限単位内で履修できますが、履修する場合には教育学科または他学部の履修制限に従ってください。

ただし、本学科に同一名称科目、同一内容科目が開講されている場合は、本学科開講科目を履修しなければなりません。本学科学科科目と教育学科学科科目との対応は次のとおりです。

本学科学科科目	教育学科学科科目
臨床心理学概論Ⅰ	臨床心理学概論Ⅰ
臨床心理学概論Ⅱ	臨床心理学概論Ⅱ
相談心理学 A	相談心理学Ⅰ
相談心理学 B	相談心理学Ⅱ
障害者・障害児の教育と医学	障害児・者の教育
福祉心理学	障害児・者の福祉
認知科学概論	認知科学概論
学習と教育の心理学	学習心理学Ⅰ
社会心理学概論	社会心理学Ⅰ
社会心理学 A（社会・集団・家族心理学 A）	社会心理学Ⅱ
教育・学校心理学	学校心理学

他学部科目一覧表

他学部科目一覧表

他学部科目の履修について

他学部科目のうち本学部学生が履修可能な科目の一覧表を以下に掲載します。
履修については下記の点に注意してください。

1. 一覧表は他学部が本学部に対して履修可能としている科目を掲載しています。なお、「担当者氏名」および「本年度休講」の掲載はしていませんので、講義内容および授業時間割表にて確認してください。履修希望科目が講義内容および授業時間割表に掲載されていない場合は本年度休講となっています。
また、年度により一覧表の科目のうち履修を認めないなどの措置をとることがあります。
2. 修得した単位は、自由選択科目に算入されます。
3. 一覧表に掲載されている科目のうち、履修に制限がある場合は、開講学部の履修制限にしたがって履修してください。
4. 今後、各部の状況により変更が生じる場合がありますので、履修する際は自学部窓口にて確認をしてください。

文学部共通科目

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
芸 術 文 化 論 I・II	各2	2・3・4	文 化 財 科 学 I・II	各2	2・3・4	日 本 の 思 想 I・II	各2	2・3・4
東 洋 の 思 想 I・II	各2	2・3・4	現 代 思 想 I・II	各2	2・3・4	日 本 美 術 史 I・II	各2	2・3・4
東 洋 美 術 史 I・II	各2	2・3・4	西 洋 美 術 史 I・II	各2	2・3・4	日 本 文 化 史 I・II	各2	2・3・4
東 洋 文 化 史 I・II	各2	2・3・4	西 洋 文 化 史 I・II	各2	2・3・4	映 像 文 化 論 I・II	各2	2・3・4
東 洋 音 楽 史 I・II	各2	2・3・4	西 洋 音 楽 史 I・II	各2	2・3・4	生 命 倫 理 学 I・II	各2	2・3・4
詩 論 I・II	各2	2・3・4	ギリシャ・ローマ文学 I・II	各2	2・3・4	テ ク ス ト 論 I・II	各2	2・3・4
物 語 文 学 I・II	各2	2・3・4	キリスト教文学 I・II	各2	2・3・4	世界各地の文学 I～VI	各2	2・3・4
児 童 文 学 I・II	各2	2・3・4	比 較 文 学 I・II	各2	2・3・4	言 語 学 概 論 I・II	各2	2・3・4
比 較 言 語 学 I・II	各2	2・3・4	記 号 論 I・II	各2	2・3・4	古 典 ギ リ シ ャ 語 I～IV	各2	2・3・4
ラ テ ン 語 I～IV	各2	2・3・4	出版ジャーナリズム I・II	各2	2・3・4	放 送 ジャーナリズム I・II	各2	2・3・4
認 知 言 語 学 I・II	各2	2・3・4	精神分析学入門 I・II	各2	2・3・4	心 理 言 語 学 I・II	各2	2・3・4
イタリアの言語と文化 I～IV	各2	2・3・4	通訳ワークショップ I・II	各2	3・4			

文学部英米文学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
イギリス文学史 I・II	各2	1・2	イギリス文学概論 I・II	各2	1・2	イギリス文化概論 I・II	各2	1・2
アメリカ文学史 I・II	各2	1・2	アメリカ文学概論 I・II	各2	1・2	アメリカ文化概論 I・II	各2	1・2
グローバル文学・文化概論 I・II	各2	1・2	グローバル文学理論 I・II	各2	1・2	英 語 学 概 論 I・II	各2	1・2
英 語 史 I・II	各2	1・2	英 文 法 I・II	各2	1・2	コミュニケーション概論 I・II	各2	1・2
異文化間コミュニケーション概論 I・II	各2	1・2	英語教育学概論 I・II	各2	1・2	イギリス文学特講 I・II	各2	3・4
イギリス文化特講 I・II	各2	3・4	アメリカ文学特講 I・II	各2	3・4	アメリカ文化特講 I・II	各2	3・4
グローバル文学特講 I・II	各2	3・4	グローバル文化特講 I・II	各2	3・4	英 語 学 特 講 I・II	各2	3・4
言 語 学 特 講 I・II	各2	3・4	コミュニケーション特講 I・II	各2	3・4	英語教育学特講 I・II	各2	3・4
英 詩 概 論 I・II	各2	3・4	イギリス事情 I・II	各2	3・4	アメリカ事情 I・II	各2	3・4
英 語 聖 書 I・II	各2	3・4	※英語コーパス研究方法論 I・II	各2	2・3・4	※CALL 英語教育方法論 I・II	各2	2・3・4

※英語教員免許状取得希望者のみ

文学部フランス文学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
※フランス語会話Ⅰ・Ⅱ	各2	1	フランス文学研究Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	フランス語学研究Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4
フランス文化研究Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	講 読 演 習Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	エクспリカシオン(A)Ⅰ・(A)Ⅱ	各2	3・4
エクспリカシオン(B)Ⅰ・(B)Ⅱ	各2	3・4	コミュニケーションⅠ・Ⅱ	各2	3・4	コミュニケーションⅢ・Ⅳ	各2	3・4
エクプレシオン・エクリットⅢ・Ⅳ	各2	3・4	エクプレシオン・エクリットⅤ・Ⅵ	各2	3・4	フランス文学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
フランス語学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	フランス文化特講Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	フランス文学演習Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3
フランス語学演習Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3	フランス文化演習Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3	フランス文学演習Ⅲ・Ⅳ	各2	3・4
フランス語学演習Ⅲ・Ⅳ	各2	3・4	フランス文化演習Ⅲ・Ⅳ	各2	3・4	フランス語教授法Ⅰ	4	3・4
フランス語教授法Ⅱ	4	3・4	フランス語作文Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	フランス語学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
フランス語中級文法Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4						

※既修得者用クラスのみ履修可

文学部日本文学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
日 本 文 学 史 (一)	2	1	日 本 文 学 史 (二)	2	1	日 本 文 学 史 (三)	2	2
日 本 文 学 史 (四)	2	2	古典文学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	近代文学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2
漢文学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	日本語学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	日本語史Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2
表象文化研究概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	日 本 学 入 門	2	1・2	文 学 交 流 入 門	2	1・2
日本文学講読Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	中国古典文学講読Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	日本語学講読Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2
表象文化論Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	日本文学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	日本文学特講A・B	各2	1・2・3・4
中国古典文学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	中国文学・思想特講Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4	日本語学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	2・3・4
文学交流特講A・B	各2	2・3・4	日本文学研究のための英語A・B	2	1・2	日本文学とアメリカ・ヨーロッパ	2	2・3・4
日本文学とアジア	2	2・3・4	書 理 論 Ⅰ ・ Ⅱ	各2	2・3・4			

文学部史学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
人文地理学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	3・4	日 本 史 特 講	2	2・3・4	東 洋 史 特 講	2	2・3・4
西 洋 史 特 講	2	2・3・4	考 古 学 特 講	2	2・3・4	史 学 特 講 A	2	1・2・3・4
史 学 特 講 B	2	1・2・3・4	自 然 地 理 学 概 論	2	2・3・4	地 誌 学	2	2・3・4
法 律 学	2	2・3・4	政 治 学	2	2・3・4	※博 物 館 概 論	2	2・3のみ
※博 物 館 経 営 論	2	2・3のみ	※博 物 館 資 料 論	2	2・3のみ	※博 物 館 資 料 保 存 論	2	2・3・4
※博 物 館 展 示 論	2	2・3・4	※博 物 館 情 報 ・ メ デ ィ ア 論	2	2・3・4	※博 物 館 教 育 論	2	2・3・4
※博 物 館 実 習 Ⅰ	2	3のみ	※博 物 館 実 習 Ⅱ	2	4			

※学芸員希望者のみ

文学部比較芸術学科

他学部・他学科生は3年次以上の学生が履修可

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
比 較 芸 術 学 特 講 Ⅰ	2	3・4	比 較 芸 術 学 特 講 Ⅱ	2	3・4	比 較 芸 術 学 特 講 Ⅲ	2	3・4
美 学 ・ 芸 術 思 想 Ⅰ ・ Ⅱ	各2	3・4	西 洋 の 宗 教 と 芸 術	2	3・4	日 本 ・ 東 洋 の 宗 教 と 芸 術	2	3・4
※博 物 館 実 習 Ⅰ	2	3のみ	※博 物 館 実 習 Ⅱ	2	4			

※学芸員希望者のみ

他学部科目一覧表

経済学部

経済学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
統 計 学 概 論 I	2	1	統 計 学 概 論 II	2	1	経 済 数 学 入 門 I	2	1
経 済 数 学 入 門 II	2	1	金 融 論 I	2	2	金 融 論 II	2	2
国 際 経 済 学 I	2	2	国 際 経 済 学 II	2	2	経 済 学 史 I	2	2
経 済 学 史 II	2	2	応 用 ミ ク ロ 経 済 学 I	2	3	応 用 ミ ク ロ 経 済 学 II	2	3
経 済 動 学 I	2	2	経 済 動 学 II	2	2	オ ー プ ン マ ク ロ 経 済 学 I	2	3
オ ー プ ン マ ク ロ 経 済 学 II	2	3	計 量 経 済 学 I	2	2	計 量 経 済 学 II	2	2
経 済 統 計 I	2	3	経 済 統 計 II	2	3	数 理 統 計 I	2	2
数 理 統 計 II	2	2	経 済 数 学 I	2	2	経 済 数 学 II	2	2
社 会 政 策 論 I	2	3	社 会 政 策 論 II	2	3	社 会 保 障 論 I	2	3
社 会 保 障 論 II	2	3	産 業 論 (航 空 事 業 I)	2	3	産 業 論 (航 空 事 業 II)	2	3
産 業 論 (損 害 保 険 業)	2	3	産 業 論 (税 法)	2	3	産 業 論 (証 券 ビ ジ ネ ス)	2	3
産 業 論 (知 的 エ ン タ テ イ メ ン ト 産 業 I)	2	3	産 業 論 (知 的 エ ン タ テ イ メ ン ト 産 業 II)	2	3	労 働 経 済 論 I	2	3
労 働 経 済 論 II	2	3	産 業 組 織 論 I	2	3	産 業 組 織 論 II	2	3
フ ァ イ ナ ン ス 論 基 礎	2	2	フ ァ イ ナ ン ス 論	2	2	国 際 金 融 論 I	2	3
国 際 金 融 論 II	2	3	日 本 経 済 史 I	2	2	日 本 経 済 史 II	2	2
欧 米 経 済 史 I	2	2	欧 米 経 済 史 II	2	2	東 洋 経 済 史 I	2	2
東 洋 経 済 史 II	2	2	経 済 思 想 史 I	2	3	経 済 思 想 史 II	2	3
キ リ ス ト 教 社 会 思 想 史 I	2	2	キ リ ス ト 教 社 会 思 想 史 II	2	2	日 本 経 済 論 I	2	2
日 本 経 済 論 II	2	2	世 界 経 済 論 I	2	3	世 界 経 済 論 II	2	3
各 国 経 済 論 A I	2	2	各 国 経 済 論 A II	2	2	各 国 経 済 論 B I	2	2
各 国 経 済 論 B II	2	2	交 通 経 済 学 I	2	3	交 通 経 済 学 II	2	3
農 業 経 済 論 I	2	3	農 業 経 済 論 II	2	3	環 境 経 済 学 I	2	3
環 境 経 済 学 II	2	3	憲 法 A	2	2	憲 法 B	2	2
民 法 A	2	3	民 法 B	2	3	民 法 C	2	3
民 法 D	2	3	商 法 A(I)	2	3	商 法 A(II)	2	3
商 法 B	2	3	商 法 C	2	3	経 済 法 A	2	3
経 済 法 B	2	3	労 働 法 A	2	3	労 働 法 B	2	3
経 営 史 I	2	3	経 営 史 II	2	3	初 級 簿 記 I	2	1
初 級 簿 記 II	2	1	応 用 ゲ ー ム 理 論	2	3	財 政 学 基 礎	2	2
行 動 経 済 学	2	2	応 用 マ ク ロ 経 済 学	2	3			

現代経済デザイン学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
公 的 規 制 の 経 済 学	2	3	N P O 論 A	2	3	契 約 の 経 済 学	2	3
公 共 政 策 の 経 済 学	2	3	公 共 選 択 論	2	3	N P O 論 B	2	3
政 策 と 評 価 A	2	3	法 と 経 済 学	2	3	都 市 再 生 論	2	3
ま ち づ く り と 都 市 計 画	2	3	住 宅 と 不 動 産 の 経 済 学	2	3	郊 外 地 域 論	2	3
地 域 人 口 論	2	3	経 済 地 理	2	2	経 済 地 誌	2	2
地 方 財 政 の 経 済 学 I	2	3	地 方 財 政 の 経 済 学 II	2	3	開 発 経 済 学	2	3
政 策 と 評 価 B	2	3	地 域 経 済 学 II	2	3	都 市 経 済 学	2	3

法学部

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次
裁 判 論	2	1・2	国 際 社 会 と 法	2	1・2	イ ン タ ー ネ ッ ト 法	2	1・2
法 思 想 史 A	2	1・2	法 思 想 史 B	2	1・2	近 代 日 本 法 史	2	1・2
近 代 西 洋 法 史	2	1・2	法 史 学 A	2	2	法 史 学 B	2	2
法 哲 学 A	2	2	法 哲 学 B	2	2	法 社 会 学 A	2	2
法 社 会 学 B	2	2	基 礎 法 特 論 A	2	3・4	基 礎 法 特 論 B	2	3・4
外 国 法 入 門 A	2	1・2	外 国 法 入 門 B	2	1・2	ア メ リ カ 法 A	2	2
ア メ リ カ 法 B	2	2	ア メ リ カ 法 C	2	2	ア メ リ カ 法 D	2	2
ア メ リ カ 法 E	2	2	イ ギ リ ス 法 A	2	2	イ ギ リ ス 法 B	2	2
フ ラ ン ス 法 A	2	2	フ ラ ン ス 法 B	2	2	ド イ ツ 法 A	2	2
ド イ ツ 法 B	2	2	中 国 法 A	2	2	中 国 法 B	2	2
E U 法	2	3・4	フ ラ ン ス 法 ・ 政 治 文 献 講 読	2	3・4	ド イ ツ 法 ・ 政 治 文 献 講 読	2	3・4
中 国 法 ・ 政 治 文 献 講 読	2	3・4	憲 法 A	2	1	憲 法 B	2	1
憲 法 C	2	2	憲 法 D	2	2	行 政 法 A	4	3・4
行 政 法 B	4	3・4	行 政 法 C	2	3・4	刑 法 A	2	2
刑 法 B	2	2	刑 法 C	2	3・4	刑 法 D	2	3・4
国 際 法 A	2	2	国 際 法 B	2	2	国 際 法 C	2	3・4
国 際 法 D	2	3・4	刑 事 訴 訟 法 A	2	3・4	刑 事 訴 訟 法 B	2	3・4
刑 事 政 策 A	2	3・4	刑 事 政 策 B	2	3・4	刑 事 法 特 論 B	2	3・4
教 育 法	2	3・4	民 法 A	4	1	民 法 B	4	2
民 法 C	4	2	民 法 D	4	3・4	民 法 E	4	3・4
商 法 C	4	3・4	商 法 D	4	3・4	商 法 E	4	3・4
民 事 訴 訟 法 A	4	3・4	民 事 訴 訟 法 B	4	3・4	国 際 民 事 訴 訟 法	2	3・4
国 際 私 法 A	2	3・4	国 際 私 法 B	2	3・4	破 産 法	4	3・4
知 的 財 産 法 A	2	3・4	知 的 財 産 法 B	2	3・4	知 的 財 産 法 C	2	3・4
知 的 財 産 法 D	2	3・4	民 事 法 特 論 A	2	3・4	民 事 法 特 論 B	2	3・4
民 事 法 特 論 C	2	3・4	税 法 A	2	2	税 法 B	2	3・4
税 法 C	2	3・4	経 済 法 A	2	3・4	経 済 法 B	2	3・4
労 働 法 A	2	2	労 働 法 B	2	2	労 働 法 C	2	3・4
労 働 法 D	2	3・4	労 働 法 E	2	3・4	国 際 労 働 法	2	3・4
社 会 保 障 法 A	2	3・4	社 会 保 障 法 B	2	3・4	政 治 学 原 論 A	2	1・2
政 治 学 原 論 B	2	1・2	日 本 政 治 史 A	2	1・2	日 本 政 治 史 B	2	1・2
政 治 思 想 史 A	2	2	政 治 思 想 史 B	2	2	比 較 政 治 学	4	2
国 際 関 係 論	4	2	政 治 学 特 論 A	2	2	政 治 学 特 論 B	2	2
N P O 論	2	3・4	ビ ジ ネ ス 法 入 門	2	1・2	消 費 者 法	2	2
銀 行 取 引 法	2	2	金 融 商 品 取 引 法	2	3・4	企 業 法 務	2	3・4
国 際 取 引 法 A	2	3・4	国 際 取 引 法 B	2	3・4	商 事 法 特 論 A	2	2
商 事 法 特 論 C	2	3・4	国 際 金 融 法	2	3・4	フ ァ イ ナ ン ス と デ リ バ テ ィ ブ	2	3・4
公 共 政 策 と 法	2	1・2	立 法 学	2	2	行 政 学 A	2	2
行 政 学 B	2	2	公 共 政 策 特 論 A	2	2	公 共 政 策 特 論 B	2	2
地 方 自 治 法	2	3・4	都 市 法	2	3・4	政 治 過 程 論 A	2	3・4
政 治 過 程 論 B	2	3・4	現 代 法 実 務 論	2	2	ヒ ュ ー マ ン ・ ラ イ ツ の 現 場 B	2	1・2
環 境 法 A	2	2	環 境 法 B	2	2	人 権 法 特 論 A	2	2
人 権 法 特 論 B	2	2	人 権 法 特 論 C	2	3・4	言 論 法 A	2	3・4
言 論 法 B	2	3・4	国 際 人 権 法	2	3・4			

他学部科目一覧表

経営学部

授 業 科 目	単位	配置年次	授 業 科 目	単位	配置年次	授 業 科 目	単位	配置年次
経営データ分析のための基礎解析入門Ⅰ	2	1	経営データ分析のための基礎解析入門Ⅱ	2	1	経営データ分析のための線形代数入門Ⅰ	2	1
経営データ分析のための線形代数入門Ⅱ	2	1	商学基礎論Ⅰ	2	1	商学基礎論Ⅱ	2	1
経営史 A	2	2	経営史 B	2	2	経営管理論Ⅰ	2	2
経営管理論Ⅱ	2	2	経営組織論Ⅰ	2	2	経営組織論Ⅱ	2	2
企業情報戦略Ⅰ	2	2	企業情報戦略Ⅱ	2	2	比較経営論 A	2	2
比較経営論 B	2	2	キャリアデザイン論Ⅰ	2	2	キャリアデザイン論Ⅱ	2	2
事業戦略論Ⅰ	2	2	事業戦略論Ⅱ	2	2	企業分析論	2	2
財務会計論Ⅰ	2	2	財務会計論Ⅱ	2	2	中級簿記Ⅰ	2	2
中級簿記Ⅱ	2	2	原価計算論	2	2	ビジネス・エコノミクス A	2	2
ビジネス・エコノミクス B	2	2	マーケティング論Ⅰ	2	2	マーケティング論Ⅱ	2	2
ファイナンスⅠ	2	2	ファイナンスⅡ	2	2	流通論Ⅰ	2	2
流通論Ⅱ	2	2	スポーツアドミニストレーション論	2	2	ショッピングセンター概論	2	2
国際貿易論Ⅰ	2	2	国際貿易論Ⅱ	2	2	Organizational Management A	2	2
Organizational Management B	2	2	Globalization and Emerging Countries A	2	2	Globalization and Emerging Countries B	2	2
Entrepreneurial ManagementⅠ	2	3	Entrepreneurial ManagementⅡ	2	3	ベンチャー企業経営論	2	3
サプライチェーンと意思決定法 A	2	2	サプライチェーンと意思決定法 B	2	2	グローバル製品戦略Ⅰ	2	2
グローバル製品戦略Ⅱ	2	2	証券投資論Ⅰ	2	2	証券投資論Ⅱ	2	2
意思決定会計論	2	2	国際会計論Ⅰ	2	2	国際会計論Ⅱ	2	2
制度会計論 A	2	2	制度会計論 B	2	2	戦略管理会計Ⅰ	2	2
戦略管理会計Ⅱ	2	2	予算管理論	2	2	コストマネジメント	2	2
企業法務Ⅰ	2	3	企業法務Ⅱ	2	3	コーポレート・ファイナンスⅠ	2	3
コーポレート・ファイナンスⅡ	2	3	リスク・マネジメント論Ⅰ	2	3	リスク・マネジメント論Ⅱ	2	3
交通論Ⅰ	2	3	交通論Ⅱ	2	3	Effective Negotiation	2	3
Written Agreements	2	3	Effective Speech	2	3	Academic Presentation	2	3
Career Development (Introduction to Coaching)	2	3	アメリカ文化論Ⅰ	2	3	アメリカ文化論Ⅱ	2	3
イギリス文化論Ⅰ	2	3	イギリス文化論Ⅱ	2	3	英語圏社会・文化研究Ⅰ	2	3
英語圏社会・文化研究Ⅱ	2	3	現代韓国社会事情Ⅰ	2	3	現代韓国社会事情Ⅱ	2	3
世界の言語文化Ⅰ	2	3	世界の言語文化Ⅱ	2	3	平和と国際社会Ⅰ	2	3
平和と国際社会Ⅱ	2	3	Market and Business Environment	2	3	国際マーケティング	2	3
国際経営論Ⅰ	2	3	国際経営論Ⅱ	2	3	サプライチェーン・マネジメント A	2	3
サプライチェーン・マネジメント B	2	3	経営戦略論Ⅰ	2	3	経営戦略論Ⅱ	2	3
経営データ分析応用Ⅰ	2	3	経営データ分析応用Ⅱ	2	3	事業創造戦略論	2	3
顧客創造戦略論	2	3	人的資源管理論Ⅰ	2	3	人的資源管理論Ⅱ	2	3
組織心理学Ⅰ	2	3	組織心理学Ⅱ	2	3	マネジメントサイエンスⅠ	2	3
マネジメントサイエンスⅡ	2	3	人間行動の多面的分析 A	2	3	人間行動の多面的分析 B	2	3
戦略・マネジメント特論 A	2	3	戦略・マネジメント特論 B	2	3	財務コンサルティング論Ⅰ	2	3
財務コンサルティング論Ⅱ	2	3	会計情報論Ⅰ	2	3	会計情報論Ⅱ	2	3
会計・ファイナンス特論 A	2	3	会計・ファイナンス特論 B	2	3	企業評価論Ⅰ	2	3
企業評価論Ⅱ	2	3	実証会計論Ⅰ	2	3	実証会計論Ⅱ	2	3
財務分析論Ⅰ	2	3	財務分析論Ⅱ	2	3	監査論Ⅰ	2	3
監査論Ⅱ	2	3	税務会計論Ⅰ	2	3	税務会計論Ⅱ	2	3
競争戦略論Ⅰ	2	3	競争戦略論Ⅱ	2	3	産業労働衛生論	2	3
ヘルスケア経営論	2	3	流通情報システム論 A	2	3	流通情報システム論 B	2	3
マーケティング特論 A	2	3	マーケティング特論 B	2	3	マーケティング特論 C	2	3
マーケティング特論 D	2	3	マーケティング特論 E	2	3	マーケティング特論 F	2	3
広告コミュニケーション	2	3	マーケティング・コミュニケーション	2	3	サービスマーケティング	2	3
ブランド・マネジメント	2	3	消費者行動論	2	3	マーケティング・リサーチ	2	3
マクロ・マーケティング A	2	3	Macromarketing B	2	3	流通政策 A	2	3
流通政策 B	2	3	経済原論Ⅰ	2	2	経済原論Ⅱ	2	2
民法 A	2	3	民法 B	2	3	民法 C	2	3
民法 D	2	3	商法 A(I)	2	3	商法 A(II)	2	3
商法 B	2	3	商法 C	2	3	経済法 A	2	3
経済法 B	2	3	労働法 A	2	3	労働法 B	2	3
国際法 A	2	3	国際法 B	2	3			

国際政治経済学部

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次
政治学方法論Ⅰ	2	2	政治学方法論Ⅱ	2	2	政治思想史	2	3
比較政治論Ⅰ	2	3	比較政治論Ⅱ	2	3	国際正義論	2	3
国際政治理論Ⅰ	2	3	国際政治理論Ⅱ	2	3	国際制度論Ⅰ	2	3
国際制度論Ⅱ	2	3	国際安全保障論Ⅰ	2	3	国際安全保障論Ⅱ	2	3
国際関係史Ⅰ	2	2	国際関係史Ⅱ	2	2	国際機構論Ⅰ	2	2
国際機構論Ⅱ	2	2	国際N G O論Ⅰ	2	2	国際N G O論Ⅱ	2	2
戦略論Ⅰ	2	3	戦略論Ⅱ	2	3	外交史Ⅰ	2	3
外交史Ⅱ	2	3	国際平和協力論Ⅰ	2	3	国際平和協力論Ⅱ	2	3
国連研究	2	3	国際行政論Ⅰ	2	3	国際行政論Ⅱ	2	3
国際環境論Ⅰ	2	3	国際環境論Ⅱ	2	3	マスメディアと国際政治	2	3
国際法Ⅱ A	2	3	国際法Ⅱ B	2	3	アジア政治論	2	3
朝鮮半島政治論	2	3	中国政治論Ⅰ	2	3	中国政治論Ⅱ	2	3
アジア太平洋政治論Ⅰ	2	3	アジア太平洋政治論Ⅱ	2	3	アメリカ政治論	2	3
ヨーロッパ政治論Ⅰ	2	3	ヨーロッパ政治論Ⅱ	2	3	欧州国際政治論	2	3
ロシア・中央アジア政治論	2	3	日本の外交	2	2	日本の防衛	2	2
日本政治論Ⅰ	2	3	日本政治論Ⅱ	2	3	日本外交論Ⅰ	2	3
日本外交論Ⅱ	2	3	日本の環境政策	2	3	国際政治学特講Ⅰ	2	1
国際政治学特講Ⅱ	2	3	国際政治学特講Ⅲ	2	3	国際政治学特講Ⅳ	2	3
ゲーム理論Ⅰ	2	2	ゲーム理論Ⅱ	2	2	ミクロ経済学中級Ⅰ	2	3
ミクロ経済学中級Ⅱ	2	3	マクロ経済学中級Ⅰ	2	3	マクロ経済学中級Ⅱ	2	3
経済情報分析入門	2	2	計量経済学Ⅰ	2	3	計量経済学Ⅱ	2	3
平和経済学Ⅰ	2	2	平和経済学Ⅱ	2	2	国際貿易Ⅰ	2	2
国際貿易Ⅱ	2	2	国際環境経済学Ⅰ	2	2	国際環境経済学Ⅱ	2	2
日本経済	2	2	中国経済	2	2	国際経済 A	2	3
国際経済 B	2	3	国際労働経済学Ⅰ	2	3	国際労働経済学Ⅱ	2	3
国際金融Ⅰ	2	3	国際金融Ⅱ	2	3	国際経済法Ⅰ	2	3
国際経済法Ⅱ	2	3	開発経済学Ⅰ	2	2	開発経済学Ⅱ	2	2
国際開発政策	2	3	開発金融	2	3	国際産業論Ⅰ	2	2
国際産業論Ⅱ	2	3	ビジネス・マネジメントⅠ	2	2	ビジネス・マネジメントⅡ	2	2
グローバル経営論Ⅰ	2	2	グローバル経営論Ⅱ	2	2	国際マーケティング論Ⅰ	2	2
国際マーケティング論Ⅱ	2	2	多国籍企業論Ⅰ	2	3	多国籍企業論Ⅱ	2	3
コーポレートファイナンスⅠ	2	3	コーポレートファイナンスⅡ	2	3	マーケットとファイナンスⅠ	2	3
マーケットとファイナンスⅡ	2	3	国際会計Ⅰ	2	2	国際会計Ⅱ	2	2
管理会計論Ⅰ	2	3	管理会計論Ⅱ	2	3	ビジネス・エコノミクス	2	3
特講(証券の基礎と資産選択入門)	2	3	国際経済学特講Ⅰ	2	1	国際経済学特講Ⅱ	2	3
コミュニケーション論Ⅲ	2	2	コミュニケーション論Ⅳ	2	2	宗教文化論Ⅰ	2	2
宗教文化論Ⅱ	2	2	日本文化論	2	2	韓国文化論	2	2
イギリス文化論	2	2	フランス文化論	2	2	ドイツ文化論	2	2
スペイン文化論	2	2	イスラム文化論	2	2	アングロ・アメリカ文化論	2	2
イベロ・アメリカ文化論	2	2	ヨーロッパ文化論Ⅰ	2	3	ヨーロッパ文化論Ⅱ	2	3
中国文化論	2	3	ロシア東欧文化論	2	3	文化と歴史観	2	3
インターカルチュラル・トレーニング	2	3	社会言語学特講	2	2	英語発音の理論と演習Ⅰ	2	3
英語発音の理論と演習Ⅱ	2	3	認知言語学入門	2	3	言語形式と意味	2	3
多言語社会とコミュニケーション	2	3	コミュニケーションの質的分析法Ⅰ	2	2	コミュニケーションの量的分析法Ⅰ	2	2
コミュニケーションの質的分析法Ⅱ	2	3	コミュニケーションの量的分析法Ⅱ	2	3	社会情報学	2	3
国際交流実務論	2	1	アジア圏概論	2	1	環太平洋圏概論	2	1
米州圏概論	2	1	ヨーロッパ圏概論	2	1	中東圏概論	2	1
アフリカ圏概論	2	1	地域研究(アジア経済)Ⅰ	2	2	地域研究(アジア経済)Ⅱ	2	2
地域研究(アメリカ経済)	2	2	地域研究(EU経済)	2	2			

他学部科目一覧表

総合文化政策学部

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次
経済分析(ミクロ)	2	3・4	経済分析(マクロ)	2	3・4	公共社会論	2	3・4
金融概論	2	3・4	行政学概論	2	3・4	国際関係	2	3・4
公共政策論	2	3・4	憲法概論	2	3・4	民法概論	2	3・4
行政法概論	2	3・4	著作権法	2	3・4	国際政治学概論	2	3・4
経済発展論	2	3・4	国際平和論	2	3・4	経済政策概論	2	3・4
公共経済学概論	2	3・4	文化経済学	2	3・4	文化行政法	2	3・4
文化産業概論	2	3・4	観光産業論	2	3・4	消費経済論	2	3・4
日本経済概論	2	3・4	マーケティング概論	2	3・4	会計学	2	3・4
サービスマーケティング概論	2	3・4	消費文化論	2	3・4	経営戦略概論	2	3・4
組織と人材の管理	2	3・4	経営情報論	2	3・4	管理会計概論	2	3・4
経営分析論	2	3・4	非営利会計論	2	3・4	プロジェクトマネジメント論	2	3・4
ビジネスプロセスマネジメント論	2	3・4	マーケティング戦略論	2	3・4	ブランド戦略論	2	3・4
公共経営論	2	3・4	文化財保護法	2	3・4	プロジェクトプロデュース論	2	3・4
世界経済概論	2	3・4	社会調査論Ⅰ	2	3・4	社会調査論Ⅱ	2	3・4
統計学	2	3・4	社会調査法Ⅰ	2	3・4	社会調査法Ⅱ	2	3・4
社会統計学	2	3・4	社会調査実習	4	3・4	文化人類学概論	2	3・4
日本文化の歴史	2	3・4	異文化間コミュニケーション論	2	3・4	表象文化概論	2	3・4
社会分析学	2	3・4	宗教史	2	3・4	経済史(1)	2	3・4
経済史(2)	2	3・4	社会思想史	2	3・4	経済と文明	2	3・4
比較文明論	2	3・4	地域文化論(1)	2	3・4	地域文化論(2)	2	3・4
地域文化論(3)	2	3・4	宗教文化概論	2	3・4	宗教社会学	2	3・4
比較宗教論	2	3・4	ネットワーク社会と文化	2	3・4	文化遺産論	2	3・4
経営文化論	2	3・4	文化と精神分析	2	3・4	現代経済史	2	3・4
現代日本文化論	2	3・4	近代哲学史	2	3・4	論理学	2	3・4
公共哲学概論	2	3・4	認識論	2	3・4	存在論	2	3・4
象徴記号論	2	3・4	情報環境論(1)	2	3・4	情報環境論(2)	2	3・4
メディアリテラシー	2	3・4	宗教哲学	2	3・4	社会倫理	2	3・4
日本思想史概論	2	3・4	現代哲学	2	3・4	現代思潮	2	3・4
現代の神学	2	3・4	認知哲学	2	3・4	環境美学	2	3・4
芸術哲学	2	3・4	情報工学	2	3・4	※ミュージアム概論	2	2・3のみ
※ミュージアム経営論	2	2・3のみ	※ミュージアム資料論	2	2・3のみ	※ミュージアム資料保存論	2	2・3・4
※ミュージアム展示論	2	2・3・4	※ミュージアム教育論	2	2・3・4	※ミュージアム情報・メディア論	2	2・3・4
※ミュージアム実習Ⅰ	2	3のみ	※ミュージアム実習Ⅱ	2	4のみ			

※学芸員資格取得希望申請者のみ

理工学部

授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	授 業 科 目	単 位	配 置 年 次
現 代 物 理 学 概 論	2	2・3・4	一 般 電 気 工 学	2	2・3・4	一 般 機 械 工 学	2	2・3・4
経 営 シ ス テ ム 工 学 特 別 講 座	2	2・3・4	情 報 と 社 会	2	2・3・4			

社会情報学部

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次
情 報 化 社 会 と 法	2	2・3・4	経 済 解 析	2	2・3・4	現 代 の 世 界 と 日 本	2	2・3・4
グ ロー バ ル ビ ジ ネ ス	2	2・3・4	文 化 心 理 学	2	2・3・4	合 理 的 思 考 と 社 会 行 動	2	2・3・4
広 報 論	2	2・3・4	情 報 政 策	2	2・3・4	コ ミ ュ ニ テ ィ サ ー ビ ス	2	2・3・4
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン デ ザ イ ン 実 践	2	2・3・4	ワ ー ク シ ョ ッ プ デ ザ イ ン 実 践	2	2・3・4	※ 地 域 ス ポ ー ツ 演 習	2	2・3・4
※ 生 涯 ス ポ ー ツ 演 習	2	2・3・4	※ 健 康 ス ポ ー ツ キ ャ リ ア 演 習 A	2	2・3・4	※ 健 康 ス ポ ー ツ キ ャ リ ア 演 習 B	2	2・3・4
※ ス ポ ー ツ ビ ジ ネ ス キ ャ リ ア 演 習 A	2	2・3・4	※ ス ポ ー ツ ビ ジ ネ ス キ ャ リ ア 演 習 B	2	2・3・4	※ ス ポ ー ツ キ ャ リ ア 基 礎 A	1	2・3・4
※ ス ポ ー ツ キ ャ リ ア 基 礎 B	1	2・3・4	※ ス ポ ー ツ 健 康 科 学 基 礎	1	2・3・4	※ ス ポ ー ツ 傷 害 学 基 礎	1	2・3・4
※ 健 康 ス ポ ー ツ 統 計 学 基 礎	1	2・3・4	※ ス ポ ー ツ 倫 理 学 基 礎	1	2・3・4			

※体育会所属学生、または競技スポーツにおいて一定基準以上の経験を有し、特別に許可された学生のみ履修可

地球社会共生学部

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次
Topics in Japanese Geography I	2	1・2・3・4	Topics in Japanese Geography II	2	1・2・3・4	Topics in Japanese Geography III	2	1・2・3・4
Topics in Japanese Geography IV	2	1・2・3・4	Topics in Japanese History I	2	1・2・3・4	Topics in Japanese History II	2	1・2・3・4
Topics in Japanese History III	2	1・2・3・4	Topics in Japanese History IV	2	1・2・3・4	Topics in Japanese Culture I	2	1・2・3・4
Topics in Japanese Culture II	2	1・2・3・4	Topics in Japanese Culture III	2	1・2・3・4	Topics in Japanese Culture IV	2	1・2・3・4
Topics in Japanese Economy, Business, and Policy I	2	1・2・3・4	Topics in Japanese Economy, Business, and Policy II	2	1・2・3・4	Topics in Japanese Economy, Business, and Policy III	2	1・2・3・4
Topics in Japanese Economy, Business, and Policy IV	2	1・2・3・4						

教務窓口について

窓口で取り扱う業務：

- 履修・成績に関すること
- 授業に関すること
- 休学・退学などの学籍に関する願出
- 教職課程(教員免許状)および各種資格(司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員)取得に関すること
- 証明書に関すること

【窓口・取扱時間】

キャンパス	担当窓口	事務取扱時間	
青山キャンパス	学務部 教務課 (17号館2階 スチューデントセンター)	(月～金) 9:00～11:30 12:30～18:30	(土) 9:00～11:30 12:30～15:00
	学務部 教職課程課 (17号館2階 スチューデントセンター)	(月・水・木) 9:00～11:30 12:30～17:00 (火・金) 9:00～11:30 12:30～18:30	(土) 9:00～11:30
相模原キャンパス	学務課 (B棟1階 スチューデントセンター)	(月～金) 9:00～11:30 12:30～17:00	(土) 9:00～11:30

*上記の内容に変更が生じた場合は、「学生ポータル」でお知らせします。

*長期休業など、授業期間以外の事務取り扱いについては「学生ポータル」でお知らせします。

*電話など、窓口以外での受付には原則として応じません。

*提出物は期限を厳守してください。締切後の取り扱いは一切行いません。

地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World
青山学院スクール・モットー

学生番号

氏名